

# 聖徒の道

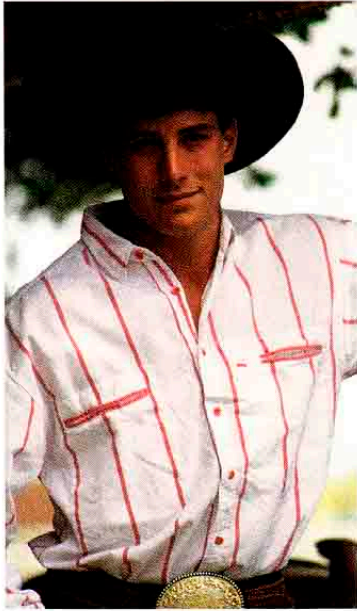
11  
1992

末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会



# 聖徒の道

1992年11月号



表紙——全米学生ロデオ・チャンピオンであったゼイン・デービスは、プロのロデオ選手になるか否かの選択を迫られていたが、ブラジルで宣教師となった。ゼインはこう語っている。「この伝道は、どんなものにも代えられない経験です。」(本誌「荒馬を乗りこなす」p. 10参照。写真撮影ブライアン・K・ケリー)

こどものページ表紙——(本誌「天父のつくられたものをとうとび、うやまう」p. 8参照。写真撮影トム・ローゼンタール、スーパーストック社)

## 一般

大管長会メッセージ 救い——家族で取り組む事業

大管長エズラ・タフト・ベンソン .....	2
「かわいい人ね。でも……」 ドロシー・リーバイ・ニールセン .....	8
高ぶりを捨てる C・リチャード・チデスター .....	16
小さな金の豆 フェリックス・アルベルト・マーチネス・デキュール .....	24
イノシの黄金の本 シャーリーン・ミーク・サンダース .....	32
彫刻——第2回国際美術コンテスト	
グレン・M・レナード .....	36
国際都市ジュネーブ——統一性と多様性 ペトリア・ケリー .....	42

## 青少年

荒馬を乗りこなす マーク・ジェイコブス .....	10
質疑応答——どうしたら聖典を読むのが楽しくなるでしょう .....	26

## 定期特別記事

読者からの便り .....	1
家庭訪問メッセージ——	
人生の移りゆく時期を楽しむ .....	25

## こども

ヒーバー・J・グラント ケリーン・リックス .....	2
小さなお友だちへ——ヘルベシオ・マーティンズ長老 .....	4
おもちゃばこ .....	7
分かち合いの時間——天父のつくられたものをとうとび、うやまう	
バージニア・ピアス .....	8
えっ、ぼくがお話を……!?! シャーリー・G・フィンリンソン .....	10
友だちになろう——ラウル・アキノ・ゴンザレス	
マービン・K・ガードナー .....	13

# 聖徒の道

1992年11月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット

顧問：レックス・D・ピネガー、チャールズ・ディエイエ、ロバート・E・ウエルズ  
編集長：レックス・D・ピネガー  
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

## 国際機関誌

編集主幹：ブライアン・K・ケリー  
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー  
編集副主幹：デビッド・ミッチェル  
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

チーフアートディレクター：M・マサ・カワサキ  
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン  
デザイナー：シェリー・クック  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ステイブ・デイトン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

工程管理：ダイアナ・バンスタブレン

配送部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1992年11月号第36巻第11号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106 東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 精興社/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円, 大会号350円

Copyright © 1992 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年3月 翻訳承認—1991年3月 原題—International Magazine, November 1992. Japanese. 92991300.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazine, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

## 読者からの便り

### 語りかけてくるメッセージ

私は「オ・レ・リアホナ」(サモア語版)に掲載された、トーマス・S・モンソン副管長の記事「心の中の榮譽の殿堂」(「聖徒の道」1992年2月号, pp.2-7)を読んだ時、まるで直接話しかけられているような気がして、涙が込み上げてきました。このように毎月の機関誌の記事を通じて、指導者がメッセージを伝えてくださることに感謝しています。

「オ・レ・リアホナ」は、ちょうどリアホナがリーハイとその家族にとってそうであったように、常に私の人生における羅針盤のようなものでした。リアホナがリーハイの家族の信仰の度合いによって動いたと同じように、「オ・レ・リアホナ」も私たちが信仰を持って読むとき、導きとなります。

毎月、私に語りかけ、導き、そして友となってくれる「オ・レ・リアホナ」が届くのを楽しみにしています。サモア、ウポロ西ステーキ部  
サタピュラワード部  
アレニ・サウロ・ファティマウ

### 小さな奇跡

私たち家族はアルゼンチンからスイスに来て3年になります。毎月、それぞれのローカルニュースが掲載された「レトワール」(フランス語版。「星」の意)と、「リアホナ」(スペイン語版)を楽しんでいます。

私はアルゼンチンで、1963年から2年間伝道しました。私の最後の任地はマルデルプラタ支部で、そこで私は多くの素晴らしい兄弟姉妹と出会いました。

この2冊の機関誌を隅から隅まで文字どおりむさぼるように読んでいた時、いくつかのステーキ部、地方部における、教会の広報および渉外関係の担当者の中にマルデルプラタ支部でお会いした姉妹の名前を見つけたのです。26年もの間、何の音信もなかった姉妹です。

「マルタ・マククリー姉妹に連絡を取らなければならない。」私は妻にそう言うと、控えてあった支部(今では

ステーキ部が組織されています)の住所に、彼女あての手紙を書きました。

すると奇跡が起こりました。1万6,000キロも離れた国から返事が来たのです。

彼女の手紙によれば、彼女は18年間も教会から離れていて、その後教会に戻ったとのことでした。

また、私の親しい友人であった人々についても教えてくれました。「リアホナ」はまさに私たちに与えられた祝福です。この出来事は私にとって、どんなに歳月と距離を隔てていようと、友情は変わらないという証になりました。この特別な出版物に感謝しています。スイス、ジュネーブステーキ部  
ジュネーブ湖ワード部  
ミーゲル・アンヘル・マテアッシ

### 霊的な糧

「タンプリ」(英語版)の制作に携わる方々に心から感謝しています。毎回一つ一つの記事が、それを読む者にとって特別に霊的な経験になるよう、たゆまぬ努力を払ってくださっているからです。

世界中の姉妹たちについて、その役割、業績、尊さに焦点を当てた1992年3月号は、特にすばらしいものでした。どのページを開いても深く考えさせられる、新しい発見がそこにありました。それはまるで、聖霊が私の心に直接話しかけてくるような経験でした。本当に大きな感動でした。まさにそこには、私が必要としていたものがあったのです。

これからもぜひ、人生のすばらしい経験を掲載し続けていただきたいと思っています。私の心を愛で満たすような、すばらしい改宗談を分かち合ってくれる兄弟姉妹がきっと大勢おられることでしょう。

皆さんの働きを通して、さらに多くの人々の人生に良い影響がもたらされるようお祈りしています。

フィリピン、マリキーナステーキ部  
マリキーナ第2ワード部  
カレン・J・ボーヤル



# 救い—— 家族で取り組む事業

大管長  
エズラ・タフト・ベンソン

**永**遠の見地に立って見れば、救いは家族で取り組む事業です。神は親に、  
子供を養育する責任をお与えになりました。この責任は、最も神聖な責任です。

今日、私たちを取り巻く社会には様々な問題があります。中でも目立つのは、性倒錯、同性愛、麻薬、アルコール中毒、破壊行為、ポルノグラフィ、暴力などです。

このような容易ならぬ問題は、みな、家庭の失敗の産物です。世の初めから神が打ち立てられた原則と、その原則を踏み行なうことを軽視した結果、起きてきた問題なのです。

世の親たちの中には幸福と成功を得るために主が与えてくださった原則から離れている人々がいます。また、今や世界中の多くの家族が問題にあえぎ、傷を負っている有様です。家族に対する責任を放棄し、とらえどころのない、いわゆる「自己充足」を追い求める親が少なくありません。また、親としての責任を放り出して物欲に身をゆだね、子供のために自分の楽しみを後回しにするのを渡る親すらいるのです。

私たちは、今、人間の価値観によって家庭を作り変えようとする謀略が巡らされていることに気づかなければなりません。テレビや映画に描かれる家族や愛のあり方が、神の戒めとは正反対であることも、よくあります。

互いに愛し合っている夫婦であれば、愛と誠実さは、相関関係にあることに気づくはずである。そして、この愛が、子供の情緒をはぐくんでいく。

子供が余暇を健全で有益なことに用いるよう、建設的な態度で導かなければならない。家族は、共に働き、遊ぶ時間をもっと増やす必要がある。

今日の社会では、聞こえのよいキャッチフレーズが罪深い行為を正当化するために用いられています。姦淫や同性愛を「性の自由」、墮胎を「選ぶ自由」、婚外交渉を「有意義な関係」と言ってみたり「自己の充足」と言ってみたりといった具合です。

この傾向が続けば、若者の情緒障害、離婚、うつ病、自殺などは増える一方でしょう。

家庭は、永遠の価値のある事柄を教える最適の場所です。家庭生活が堅固で、イエス・キリストの福音の原則とその実践に基づいていれば、このような問題は、そう簡単に起こることはありません。

### 3つの原則

私が皆さんにお伝えしたいと思っているメッセージは、家庭に愛と安らぎ、幸福を約束する、神が定められた原則に立ち返ることについてです。幸せで強い家族関係を築くための3つの原則についてお話したいと思います。

第1に、夫婦は目標、望み、行動において正しい思いを持ち、しかも一致し、ひとつとならなければなりません。

結婚は神のみ前に取り交わされる神聖な誓約であるという認識がなければなりません。夫婦はお互いに対してだけではなく、神に対しても義務を負っているのです。神は、その誓約を重んじる夫婦に祝福を約束されました。

愛と信頼、平安のためには、結婚の誓約を固く守ることがぜひとも必要です。神は姦通をはっきり禁じておられます。

互いに愛し合っている夫婦であれば、愛と誠実さとは、相関関係にあることに気づくはずで、そして、この愛が、子供の情緒をはぐくんでいくのです。家庭生活は、幸福と喜びに満ちたものでなければなりません。子供が過去を振り返るとき、心温まる思い出や交わりが思い浮かんでくるようであればなりません。

夫婦の関係を維持するには、ぜひとも忍耐と自制が必要です。夫婦は、言葉と感情を抑えることを学ばなければなりません。

家庭での祈り、また夫婦がふたりでする祈りは、皆さ

んのきずなを強くすることでしょう。そしてお互いの考えや望み、意見がだんだんとひとつになっていき、やがては同じ目的、同じ目標を目指すようになることでしょう。

導きと助けを受けられるよう、主、予言者の教え、そして聖典に信頼を寄せてください。特に見解の相違が深刻になったり、問題が持ち上がったときには、そうすることが大切です。

逃避するのではなく、共に難関を乗り越えるときにこそ、霊的な成長が得られます。今日の社会では、むやみに個人主義が強調されていますが、それはエゴイズムや分裂を助長するばかりです。「一体となる」という主の教えは、今日もなお生きています。(創世2:24参照)

幸福な結婚の秘訣は、神に仕え、また夫婦が互いに仕え合うことにあります。結婚の目標は、個人の成長だけでなく、一致、すなわち夫婦がひとつとなることにもあるのです。一見矛盾しているように感じられるかもしれませんが、相手に仕えれば仕えるほど、自分自身の霊性が高まり、情緒的にも成長することができるのです。

第2は、主の愛と教えによって子供たちを育てることです。

今日のような世の中で、心の明るい温かな子供を育てることは、生易しいことではありませんが、できないことではありません。現にそれをしている親はいます。

親が己の責任を自覚すること、それが鍵となります。

子供にとって何にも増して必要なのは、自分が愛され、必要とされ、価値を認められていると心で感じ、理解することです。子供たちは、このことを繰り返し確信する必要があります。これは、明らかに両親が果たすべき務めです。そして最も頻繁に、最善の方法でこの務めを果たせるのは母親なのです。

子供は、永遠という視点から見て、自分がどのような存在であるかを知る必要があります。そして、自分には永遠の父なる神がついていてくださり、その方に頼り、祈り、導きを受けることができると知っておく必要があります。また、自分がどこからやって来たのか、人生の意味は、目的は何なのかを知ることも大切です。



親は、自分の子供を、福音の儀式、すなわちバプテスマ、確認、神権への聖任、そして神殿結婚の儀式に向けて備えるよう命じられている。

祈ること、主を信頼して導きを求めること、受けた祝福に感謝することを、親は子供に教えなければなりません。子供たちがまだ小さかったころ、ベッドの傍らにひざまずいて、どう祈ったらよいか教えた時のことが思い出されます。

また親は、善悪を見極めることも教えなければなりません。子供は神の戒めを学ぶことができます。また、学ばなければなりません。盗み、うそをつき、人をだまし、むやみに人の物を欲しがるのは悪であることも、学ばなければなりません。

さらに、労働についても家庭で学ぶ必要があります。正直に働くならば高潔さと自尊心が得られることも、学ぶ必要があります。また、労働と良い働きに伴う喜びについても学ばなければなりません。

また、余暇を健全で有益なことに用いるよう、建設的な態度で導かなければなりません。またテレビの見過ぎは有害です。

家族は、共に働き、遊ぶ時間をもっと増やさなければいけません。家庭の夕べを毎週開くようにしてください。そして、福音の原則について語り合ったり、遊んだり、家族みんなで家の仕事をしたりするとよいでしょう。また、寸劇をしたり、ピアノを囲んで歌ったり、ゲームをしたり、特別に作ったおやつを食べたり、家族全員でお祈りしたりしてください。このような活動は、家族をあたかも鉄の鎖のように、愛と誇り、家風、力、そして忠実さで結び合わせます。

安息日には、家族そろって聖典を勉強することを習慣にしましょう。

毎日家族が集まって、聖典を読んだり、賛美歌を歌ったり、家族の祈りを捧げたりするひとときを持つのもよいでしょう。

第3に、親は、子供が福音の儀式を受けられるように教えなければなりません。

家庭で教える最も大切な事柄は、霊にかかわる事柄です。両親は、自分の子供たちを、福音の儀式、すなわちバプテスマ、確認、神権への聖任、そして神殿結婚の儀式に向けて備えるよう命じられています。また、安息日

を尊び、大切にし、聖く過ごすことも教えなければなりません。とりわけ大切な親の役割は、子供たちに何にも増して永遠の生命を得たいという希望を持たせ、熱心にもその目標を追い求めるようにさせることです。

永遠の生命は、福音の律法と儀式に従ったときに初めて得られるものです。

両親がみずからその救いの儀式に伴う誓約に従い、神殿結婚の模範を子供たちに示すならば、自分たちの結婚生活を幸福なものにするだけにとどまらず、やがては子供たちもその模範に従うようになるでしょう。

そのような家庭を築く両親は、主が言われたように「祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家……秩序の家、神の家」（教義と聖約88：119）を築くのです。たとえどんなにつましく貧しい家庭であっても、そのような家族には愛と幸福、平安、喜びが満ち満ちていることでしょう。そして、子供たちは正義と真理のうちに成長し、主に仕えたいという望みを持つようになるでしょう。

家庭生活という喜びを与えてくださったことを、神に感謝しましょう。何度も申しあげてきましたが、良い家庭なくして真の幸福はあり得ません。人生で人に最もすばらしい感化を与えてくれる場所、そして、最もすばらしい人と人との交わりを教えてくれる場所、それは家庭なのです。□

### 話し合いのポイント

1. 救いは家族で取り組む事業である。神は親に、子供を養育する責任をお与えになった。

2. 神は、家庭に愛と安らぎ、幸福を約束する原則を定められた。

●夫婦は、お互いに対して、また神に対して仕えなければならぬ。

●子供たちは、主の愛と教えによって育てられるべきである。

●親は、子供が福音の儀式を受けられるように教えなければならぬ。





# 「かわいい人ね。でも……」

ドロシー・リーバイ・ニールセン

幸いなことに、夫の母は息子が理想的な女性と結婚することを求めてはいませんでした。彼女は、すぐに私を気に入ってくれましたし、私のすべてを無条件に受け入れてくれました。

**背**の高い金髪の女性ではなく、私を結婚相手に選んだことを、夫が自分の母親に告げた時のことです。彼女は冗談でこう答えました。「かわいい人ね。でも背がちょっとあなたとつり合わないかしら。」

それ以来、このことは私たち夫婦の間で笑いの種になっています。ハンサムで、いつも最高の成績を収めていた息子と人生を共にする女性として、確かに私にはいくら「つり合わない」点があったと思います。彼女は息子を医学学校へ通わせるために、また理想的な男性に育てるために、牛や羊、またそれらから得た生クリームや羊毛を売る仕事をして犠牲を払ってきたのです。

しかし、幸いなことに、彼女は息子が理想的な女性と結婚することを求めているわけではありませんでした。義母は、すぐに私を受け入れ、気に入ってくれましたし、私のすべてを無条件に受け入れてくれました。

結婚式の前に開かれたパーティーで、義母は、息子が独り立ちできるように結婚生活には一切干渉しないと仰いました。そして実際そのとおりにしたの

です。息子がおいしい栄養ある食事を取っているかどうかを確かめようと、定期的に温かいスープを持って来るようなことはありませんでしたし、息子のために歯医者<sup>歯</sup>の予約を取ったりもしませんでした。

彼女は、いつも私の誕生日を覚えていたわけではありませんでしたが、それ以上のことをしてくれました。私のことをいつも心にかけ、最も価値ある贈り物をくれたのです。それは、義母が私に寄せてくれた信頼です。義母は、私が夫や子供たちと共にしっかりした家庭生活を送れると信頼してくれていたのです。

家の飾り付けや家具について、義母からアドバイスをもらった覚えはありませんが、彼女はソファの色や家具の配置についてよく褒めてくれました。あれは、いすをひとつ購入した時のことです。次第にその色が気に入らなくなりました。すると、彼女は、もし自分の家のいすの色の方が好みに合うなら、交換してもよいと言ってくれました。

彼女は、こちらから頼まない限り、

子供のしつけについても口を挟むことはありませんでした。理想的な子供の数について、意見を求めたことがあります。すると彼女の答えは、夫と共に主の導きを求めるのが何よりである、ということでした。

義母は、新しいピアノや車、カーペットなど、私たちが購入した物について意見を言ったりはしませんでした。彼女が家に来たとき話題になるのは、私たちの子供やいすのことでした。彼女が亡くなるずっと以前に日記に書いたことですが、私は彼女が親族のだけかについて悪く言うのを聞いたことはありません。きっとだれかに私のことを悪く言ったり、私の家族の秘密を漏らしたりもしなかったでしょう。そう思うと安心していられました。

義母は、私たちのために時間を割いてくれました。私たちの音楽を聴き、冗談を聞いて笑ってくれました。いつも私たちの強い味方になってくれました。彼女への愛を示すために、義務的に回数を決めて訪問したり、電話をかけた必要はありませんでした。私たちは行きたいと思った時に彼女を訪問しました。なぜなら本当に彼女に会いたかったからです。

義母が年老いた未亡人となってからは、時間がたつのを遅く感じるようでした。私たちが久し振りに訪問すると、玄関で「まあ、うれしいわ。また来てくれて」と言って迎えてくれたものです。また休日に彼女をうちに招待したとき、すでにほかの家族からも招待さ

れていたりすると、「親切にしてくれてありがとう。私は幸せ者だよ」と言っていました。

義母は何でも自分でしていました。

アイロンかけや家のペンキ塗り、芝刈り、仕事の手伝いなど、何かしてあげなければなどとは感じさせないのです。

義母は自立することに喜びを感じて

いました。私も義母がひとりで何でもやっていくことに敬服していました。

私が突然訪問して、壁や物置の掃除をしたり、車で買い物に連れて行ったりすると、彼女は旧約の時代のナオミがルツにしたと同様に私に勧めるのです。「子供たちのもとへ早くお帰りなさい。彼らにはあなたが必要なんですよ。」そしていろいろな言葉で何度もこう言いました。「どうして、わたしと一緒にしようというのですか。」(ルツ1:11)私は心から答えました。「お母さんを愛しているからです。」

義母の鉢にゼラニウムを植えるために訪問した日のことです。作業用の手袋がないか彼女に尋ねました。すると、しばらく姿が見えなくなったと思ったら、真新しい白い手袋を持って戻って来ました。

「庭いじり用の古い軍手でよかったんですよ。これは良すぎます。」

すると義母は言いました。「あなたの手に良すぎる物なんてないわ。」

それが、義母と交わした最後の言葉でした。私が植え込みをしている間に、彼女は静かに息を引き取ったのです。

愛にあふれた義母に、深い感謝と敬意を込めて、いにしへのルツと同様に申しあげます。「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。」

(ルツ1:16)□





PHOTOGRAPHY BY BRIAN K. KELLY; DAVIS FAMILY



# 荒馬を乗りこなす

マーク・ジェイコブス



ロデオの登場ゲートがぱっと開きました。半野生の荒馬が、はね回りながら勢いよく跳び出してきました。荒馬にまたがったカウボーイの姿勢に乱れはありません。荒れ狂い、跳びはねる野生の馬の動きに完璧かんぺきに合わせて、しっかりとリズムを取っています。

その時です。観衆が総立ちになって、息を飲みました。巨大な荒馬が音を立てて倒れ、その全体重がカウボーイの左足にかかったのです。

カウボーイのゼイン・デービスはやっとのことで立ち上がり、足を引きずりながら、ゲートの中まで戻りました。カウボーイブーツを脱ぐと、足が一気にはれ上がります。何か所も骨折した足を見ていると、ロデオ選手権にはもう二度と出場できそうもありません。しかし、そんなことでくじげるゼインではありませんでした。

1カ月もたないうちに、ゼインはもう馬に乗り始めていました。全米の学生ロデオ・チャンピオンの選手権を目指して、再び練習を開始したのです。

現在、ゼインは宣教師となってブラジルで伝道しています。ポルトガル語

で福音の教えを伝えているのです。ゼインはこう語っています。「この伝道は、どんなものにも代えられない経験です。全米のプロ・ロデオ・チャンピオンの座とも交換したくはないですね。」

## 全米学生チャンピオン

ゼイン・デービスが、合衆国モンタナ州ボーズマンで開催された全米大学ロデオ選手権で全国最優秀学生カウボーイに選ばれたのは、1990年6月のことでした。南アイダホ大学の1年生でしかなかったゼインが、全米ナンバーワンの座に就けたのは、荒馬に2、3回乗れたとか、大会で数回優勝したとかの経験があったからではありません。

ゼインの訓練は、まだ彼が歩けないうちから始まりました。父のシャーン・デービスデービス(全米ロデオ選手権の半野生馬の鞍乗りの部で3回優勝した経験がある)は北アメリカ各地で開かれるロデオ大会にゼインを連れて転戦していたのです。

3歳の時、ゼインはどうしても8歳

---

ゼイン・デービスは、ブラジルで専任宣教師として働くという  
心の高揚するチャレンジに喜んでこたえるため、  
ロデオの大会に出場するという胸躍るチャレンジを喜んで捨てた。



ゼインと母親のジーナ、父親のシャーン。ゼインは、全米ロデオ・チャンピオンの座に3度も輝いた父親から、貴重なロデオ技術を教わった。両親は彼に知恵の言葉を守ることと、神権の力に頼ることも教えた。



から12歳のカウボーイたちに交じってロデオの大会に出場したいと言い張りました。しかし、幼すぎたため競技への出場は許可されず、その代わりに乗馬技術を披露することが許されただけでした。それでも、ゼインは得意気に、カウボーイハットやカウボーイブーツ、ロープに拍車(乗馬用の靴のかかるとに付ける金具)という完全なスタイルで、気の荒い子牛にさっそうとまたがりました。ゼインの話によれば、その後は地面にたたきつけられるまで何も記憶はないということです。しかし振り落とされるまでに、ほぼ規定の時間、乗っていたのは確かです。

ゼインが次にロデオに参加したのは、5歳になった時でした。この時は、子馬を相手にして、見事に振り落とされてしまいました。それでも結果は第3位でした。その後、何百回となくロデオに出場したゼインは、次々に鞍やベルトのバックル、トロフィーといった見事な賞品や賞金を獲得していったのです。こうした成功は、懸命な努力を重ねて初めてもたらされたものでした。

#### 少しの恐れと

ゼインは、アイダホにある両親の牧

場で毎日体力作りに励んでいます。腹筋運動80回、懸垂20回、腕立て伏せ400回が日課です。さらに、馬に乗ったまま子牛にロープをかける練習を10頭から20頭こなし、毎週1回は、実際に荒馬にまたがって練習をします。また、ロデオに出場する前にはいつも、父親に頼んで祝福してもらいます。ゼインはこう言っています。「父から祝福してもらったおかげで、けがをしないで済んだことが何度もありました。たとえけがをした場合でも、快復がすごく速いんです。」

ゼインはさらに、知恵の言葉に従ってきたことも、人生における大きな祝福だったと言っています。「酒を飲んだり、麻薬を使ったりするカウボーイの仲間の中には、一時的に成績を上げる者もありますが、決して長続きはしないんです。」

ゼインがこれまでよい成績を残してきた理由はほかにもあります。それは、彼がチャレンジにどう取り組むかを心得ているという点です。あるロデオ大会の時、挑戦した大学生をことごとく振り落としてきた荒牛に乗る羽目になってしまいました。しかし、まだ13歳だったゼインは5回の試技のうち3回を成功させたのです。ゼインはこう言











っています。「私はロデオの大会に参加してきて、本当に怖いと思った記憶はありません。少しだけ恐れを抱くのは、いつも良い結果を生みます。でも恐れすぎでは駄目です。少しぐらい恐れがある方が、慎重に計画を練るものです。でも恐れすぎていると、自制心を失ってしまいます。」

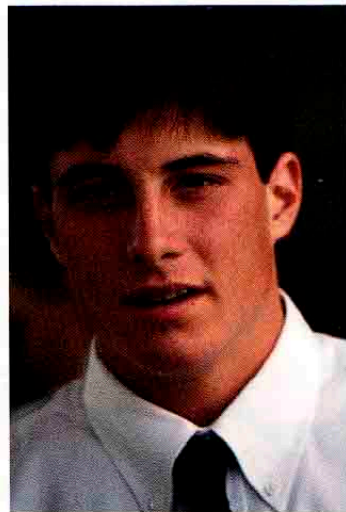
### 伝道

ゼインにとって最もむずかしい決断のひとつは、伝道に出るかどうかということでした。全米各地の大学から入学の勧誘が来ていました。幼いころからずっと伝道に出るつもりでいたものの、最終的に決断するのはとても困難なことでした。「でも、自分がこれまででいただいていた、たくさんの祝福を一部でも主にお返すために伝道に出ることを決意したのです。」

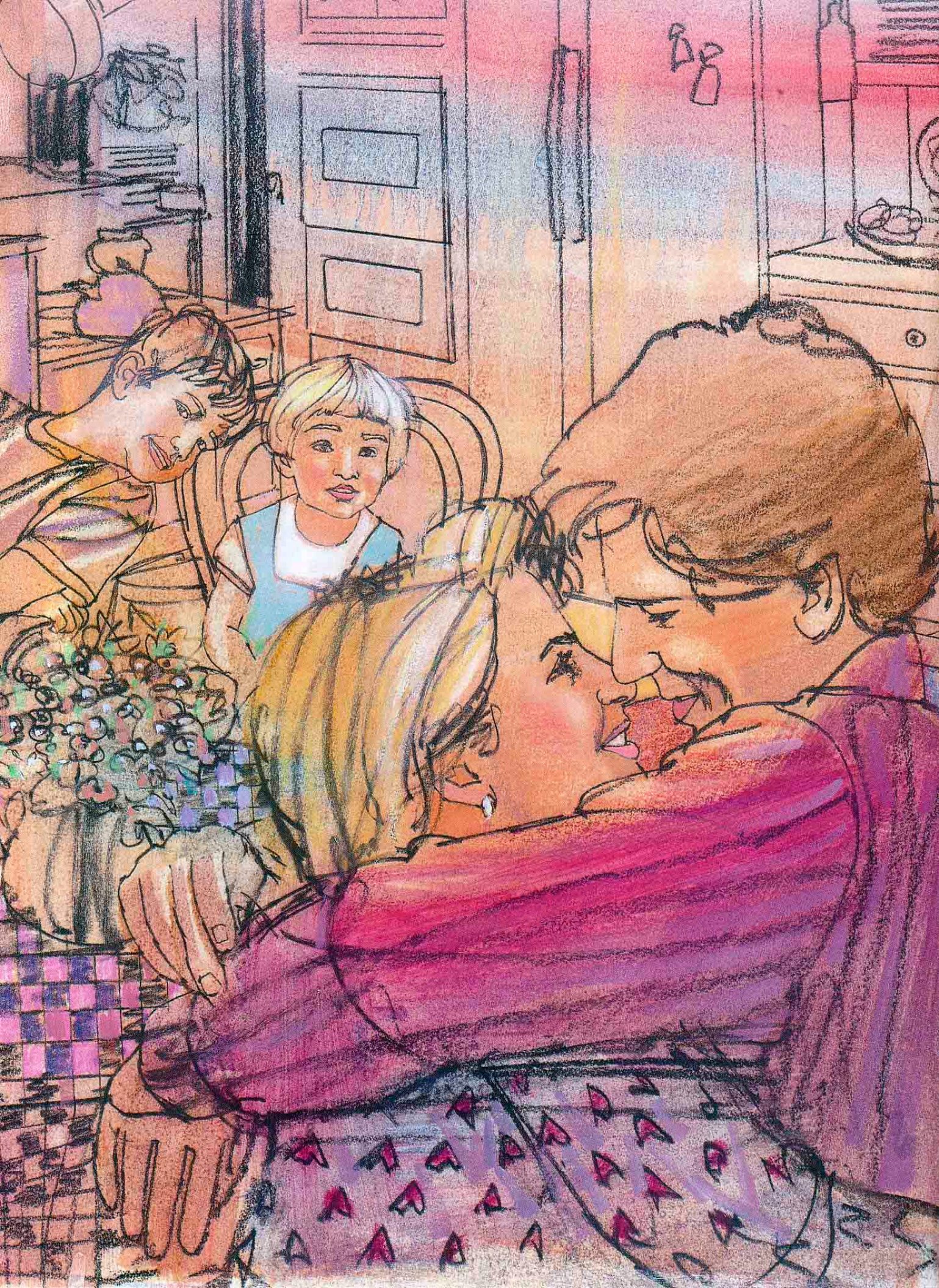
伝道中のゼインが家族にあてて書いた手紙の一部を紹介しましょう。「多くのことを学びました。私も随分変わりました。毎年夏になると、ロデオに出場するたびに、荒馬を日に3度も乗りこなすのはひどく大変なことだと思っていました。しかし、伝道の大変さはロデオのそれとは比較になりません。それでも、伝道は私にとって大きな祝福です。」

ゼインはこれまで、1,000頭余りの荒馬を乗りこなす、同じく1,000頭余りの子牛にロープをかけてきました。荒馬乗りもゼインにとってはそれほど大変なことではなくなりました。でも、ロデオの大会に参加して一番うれしかったことは、父親と共に時間を過ごせたことかもしれません。父親はいつもそばにいて、見守り、無事でいられるよう心を配ってくれたのです。

ゼインにとってブラジルでの伝道はたやすいことではありませんでした。新しい言葉を学び、異文化の中で生活するという衝撃的な経験もしました。しかしゼインは次第に成長していきました。そしてゼインが伝道中に体験から学んだことは、天のお父様がいつもそばにいて、見守り、無事でいられるよう心を配ってくださるということでした。□



全米大学チャンピオンになってからは、ロデオ競技を続けるかどうか悩み抜いた。「でも、自分がこれまででいただいていた、たくさんの祝福を一部でも主にお返すために伝道に出ることを決意したのです。」



# 高ぶりを捨てる

C・リチャード・チデスター

けんそん  
謙遜こそ幸せな人生と結婚生活に欠かせない要素です。

ふ たちの結婚生活はもう救いようがないのだと彼らは言いました。しかも、離婚に向けて最後の準備に入っているというのです。

結婚カウンセリングも受けたことがありました。しかし、民間のカウンセリングでは、ふたりの関係は良くなるどころか悪くなる一方でした。謙遜になっ  
て行かないを変えようとせず、むしろ自己中心的になったり権利を主張したりといった枝葉末節的なテクニックを教えられ、互いの破壊的な行動を助長させてきたのです。

このふたりは悪い人たちではありません。ただ、人を思うように動かすために、強要したり、批判したり、支配したり、命令したりするという競争社会の行動や態度にとらわれてしまったのです。互いに責任をなすり合い、相手を変えようと脅したり、罰したりと

この夫婦は神殿に参入して共にへりくだり、なくしたと思った愛を再発見しました。

いう過ちを犯してきました。

私はこの夫婦と率直に話しました。ふたりがいかに独善的で、相手への非難で凝り固まっているか、彼らが理解できるように助けようと努めました。個人としても夫婦としても、私たちが直面する問題はおもに霊的な原因によるものであることを説明しました。つまり、問題は、福音の原則に従わない結果として生じることを説明したのです。さらに、相手の行動を直接支配することはできないのだから、自分の態度を問題にする必要があることも話しました。

初めて私のもとを訪れてから、この夫婦は共に神殿に参入しました。日の栄の部屋で、ふたりは——相手ではなく——それぞれ自分が、どんな過ちを犯してきたのか教えてくれるように、静かに天父に祈りを捧げました。神は慈悲をもって彼らの祈りにこたえられ、ふたりは受けた啓示によって謙遜になり、心を和らげました。神殿の近くに住みながら長い間参入していなかったふたりは、祈りの答えがあまりに惜しみなくはつきりと与えられたことに驚

き、天父の慈悲深さに感嘆したのでした。

今こそこの夫婦は、結婚生活の修復に向かってスタートできるのです。ふたりは互いに責めるのをやめ、自分自身の悔い改めに思いを向けるようになりました。相手を責めるのはこの世的な方法であり、主の方法ではないと悟ったのです。同時に、聖典を読み定期的に心からの祈りを捧げていなかったことにも気づき、高ぶりの罪に陥っていたことも理解できました。

ふたりは、今まで利己的で、自分のことしか考えていなかったために、それぞれの利益がぶつかり合い、結婚生活での一致を実現できなかったという事実  
に打ちひしがれました。親の悪い模範によって、子供たちにも悪影響を及ぼしてきたことにも気づいたのです。

この夫婦が謙遜になり、失ったと思  
った愛を取り戻す過程を自の当たり  
にするのは、実に感動的な経験でした。

## 一致の実現

結婚生活ではふたりの関係を第一と

し、自分を第二にすべきです。これは、自分のことを忘れなければならない、ということではありません。文字どおり2番目にしなさいという意味です。結婚生活では、一致し、協力し合うことを目標にすべきなのです。

この時代に、主はアダムとイヴに与えられた同じ戒めを私たちにも与えられました。「人各々一人の妻を有つことは義し。而してこの二人の者一体となるべし。すべてこれは、この世の造られたる目的に適わんためなり。」(教義と聖約49：16。創世2：24参照)

主が私たちに望んでおられるのは、神殿で結婚するだけでなく、結婚生活で一致を実現することなのです。この一致をはぐくむには、まず、謙遜になって、自分の欠点に目を向け、それを、主に対する信仰と悔い改めを通して取り除かなければなりません。

### 自分自身を知る

結婚するや否や、私たちは今まで知らなかった自分を見だし始めます。若い帰還宣教師だったころの自分を思うと、恥ずかしくなります。当時の私は、自分はこの上なく霊的で、キリストのようだと思っていました。忍耐強く、何事にも耐え、親切であると自負していました。

そして結婚生活に入りました。自分には学ぶべき多くの事柄があるのをほ

どなくして知りました。最初の子供が生まれ、自分にどれほど忍耐力が足りないかわかりました。妻のキャシーとの関係では、自分が無意識にこの世の教えを信じていたことにも気づきました。「自分を守れ」「そんな我慢は必要ない」「引き下がるのは弱さのしるしだ」というような教えです。ほかのほお(マタイ5：39参照)を向け、誠実にキリストの福音に生きるキャシーの模範は、キリストの弟子であるとはどういふことか自分があまりにも理解していなかったと、思い知らされました。

自分について知らなければならない点の多くは、あまり好ましいものではありません。しかし、自分の弱さを知り、チャレンジに立ち向かう経験を経てこそ、私たちは人格的に成長し、よりキリストのようになることができるのです。結婚することと親になることほど、心からの祈りと断食、そして魂の奥底を見つめ直す悔い改めが必要とされることはありません。そうしなければ親として、<sup>ほんりよ</sup>伴侶として合格点には達し得ないのです。

ニール・A・マックスウェル長老は次のように言っています。「家庭生活のプレッシャーとは、あるがままの自分があらわになり、弱さがさらけ出されることです。その上で、できれば弱さを改善するように努力するのです。……むきだしの利己心と向き合い、礼儀の必要なことを痛感し、傷つきなが

らも相手を赦し、相手の気分に影響されながらも、なぜ私たちはときに傷つけ合うのか、多少なりとも理解し合うことの繰り返しです。……家庭は、互いに公私両面にわたって行動を一致させ、生活の中の偽善を減らして、キリストの教えに一層近づくための大きな機会を与えてくれます。」(「エンサイン」1972年2月号, p. 7)

### 高ぶりの邪悪な支配

結婚して親になり、自分の弱点を発見し始めると、攻撃に転じて、不幸を相手、つまり自分の親や配偶者、また子供や状況のせいにする誘惑にかられることがあります。しかし、相手を責めることをやめなければ、私たちは高ぶりの邪悪な支配のとりこになってしまうのです。

高ぶりに関して述べられた重要な説教があります。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語りました。「高慢は至る所に見受けられる罪であり、大きな悪です。……高慢はシオンの大きなつまずきの石です。」(『高ぶりを心せよ』『聖徒の道』1989年7月号, p. 7)

結婚カウンセラーとして私は、高慢こそ現代社会において多くの結婚を失敗に終わらせている真の原因であると信じています。しかし、書店の棚に並ぶ一般向けの結婚に関する本を見ても、



自分について知らなければならぬ点の多くは、  
あまり好ましいものではありません。

しかし、自分の弱さを知り、チャレンジに立ち向かう経験を経てこそ、  
私たちは人格的に成長し、よりキリストのようになることができます。

結婚生活を改善する方法のリストの上位に「謙遜」の2文字は見つかりません。

ベンソン大管長は高慢の中心を成すのは敵対心、すなわち神と同胞に対する敵対心であると言っています。高慢な人は自分の力で万事を行なおうとし、神にもほかのだれにも指図されることをよしとしません。へりくだって柔和な心を保つより、高慢になって自分の力を誇っているのです。

そのような状態にある間は聖霊の影響から心を閉ざしているため、だれもその人を助けることができません。心

をかたくなにして聖霊の招きを拒絶しているからです。自分の弱さや過ちから学ぼうとせず、自分の真実の姿から目をそむけているからです。自分の弱さを直視してそこから成長しようとしなくて、人と争い、責め、あるいは現実から逃げ出すことを選んでいるのです。

この世は高慢の種を絶え間なく私たちに植えつけています。その激しさには背筋が寒くなるほどです。人はいつも他人より勝れ、一番になり、成功者にふさわしい身繕いをするように教えられています。この世の大部分は、競

争原理に基づいて機能しています。人と比較し、競争することによって、多くの人々は高慢になっていくのです。ベンソン大管長はこう言いました。「高慢な人は、自分の知性、意見、仕事、財産、才能など、この世的な尺度をもって張り合い、すべての人を敵にまわします。」（『高ぶりを心せよ』p. 5）

私たちは皆、高慢な態度を身につけてしまっています。高慢でないと考える人がいれば、それはすでにひどく高慢な態度であるといえましょう。この霊の癩は様々な症状を呈します。たとえば、粗探し、うわさ話、中傷、不平、ぜいたく、そねみ、むさぼり、忘恩、称賛の言葉の欠如、不寛容、しつとなどです。その行き着く先は、利己主義、自己憐憫、争い、この世的な自己の実現、恨み、自己弁護、赦しの拒否、罪を認め悔い改めようとしぬい姿勢です。

おそらく、結婚生活や家庭ほどこのような問題が現われやすい場はないでしょう。

ベンソン大管長は「私たちは高慢を克服して器の内側を清めなければなりません」と言いました。そして、大管長がしみじみも語ったように、謙遜になることこそ高慢の最善の治療薬なのです。大管長はまた、へりくだるには、人を自分自身のように尊び、勧告と懲罰を受け入れ、自分を傷つけた人を赦し、無私の奉仕を行ない、伝道に出て、

もっと頻繁に神殿に参入し、罪を告白して悪を捨て、神によって生まれ、神のみこころに服従して、神を第一にした生活を築きあげることが必要だと指摘しています。神を第1にすることは謙遜に不可欠な要素なのです。(『高ぶりを心せよ』pp. 4-7 参照)

### 謙遜になる

モルモンは「その心が謙遜で柔和で〔なければ〕神のみこころにかなわない」(モロナイ7:44)と教えました。柔和とは忍耐強く穏やかなことです。謙遜さとはこの世的な高ぶりや傲慢さのない状態を言います。そのような謙遜は、自分を正直に見つめ、不完全さと、改善の必要性を認めさせてくれます。アルマは「自分の足らないことをいつも神の前で告白せよ」(アルマ38:14)と勧告しています。そうすれば、健全な、神のみこころに添った悲しみを感じて、まことの変化を、結婚生活、家庭生活にもたらします。

主はこう言われました。「もし人われに来らば、われはかれにその弱点を認めさせん。見よ、われは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど、すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるにより、かれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。」(イテル12:27)

なんとすばらしい約束でしょう。もし主のみ前にへりくだり、自分自身ではなく主に信頼を置けば、主は必ず私たちを強め、清めてくださるのです。主の恵みは大きく、人を変える主の力にへりくだって身をゆだねるすべての人に行きわたります。主の恵みにあずかるには、心を主に従わせ(ヒラマン3:35参照)、導きを求め、みこころに従わなければなりません。主の恵みとは、最善の努力を傾けるときに主から与えられる、助けと力をいいます。

私の経験からも、へりくだることを拒む人々には、継続的な改善は期待できません。謙遜さは真の霊性の重要な要素であり、その霊性が幸福な人生、幸せな結婚生活の基盤となるのです。

### 霊的な病のための霊的な処方

悔い改めの必要を認めるときに戸惑いや不快感を引き起こすのも、高慢です。しかし、安易な改善策を求めたところで、見つかるのは外見的な行動を変えるだけの、人間が考え出したテクニックだけというのが関の山です。このような方法にのみ頼っていると、神にではなく、「人間の腕」(IIニーファイ4:34)に頼ることになります。外見的な行動はテクニックや技量で変えられますが、本当に変えなければならぬものは、心の中にあるのです。

自分自身の問題も対人関係の問題も、

本質的には霊的なものなので、霊的な手段によって解決する必要があります。

自己の力だけでは自分を癒すことはできません。もしそれができれば、贖いも、福音の第一原則と儀式も必要なくなります。私たちに求められているのは、主への信仰と悔い改めによって実際に聖霊の清めの力を受け、癒しを受けられるように謙遜になることだけなのです。

### キリストを信じる信仰

キリストを信じる信仰を持つとは、主のみたまを信頼して、導き、叱責、慰め、希望を求め、その導きに従って行動するという事です。自分だけの能力と知性、善良さに頼るなら、それは危ういものになります。死すべき肉体を持ったこの世では、自分の期待どおりにいつも能力を発揮できるわけではないからです。そんなとき、私たちは弱気になり、自信と希望を失ってしまうのです。しかし、人間の腕や自分の力に頼ることをやめて神を信頼するならば、神は必ず助けの手を差し伸べてくださいます。

「ああ、世の人はいかにも甚しく空しいではないか」(ヒラマン12:7)という聖句は、侮辱の言葉ではなく、神の偉大な力と肉身のままの人の弱い力とを比較したときの、正確な描写なのです。人に助けを与える救い主の力に



その女性が、希望と信頼を主に置いて、この世の高ぶりを克服したとき、養子の息子との関係は以前よりもよくなりました。

信頼を置き、主が私たちの心を変え、清められるように自らをゆだねなければなりません。つまり主は、心の主要な不純物である高慢と利己心を清めてくださるのです。このような足かせから心を解放しなければ、私たちは自分との争いを続け、みたまと真理に背き続けることでしょう。変わるためにはまず、自分の心が汚れていると認めなければなりません。

モルモン経は、すべての善は神から出ると教えています。(モロナイ7：12参照)それはすなわち、必要に応じて自分を変え、望みどおりの姿になるには、主の助けが必要だということです。当たり前ようですが、多くの未

日聖徒が忘れてのことです。何もかも神にかかっているかのように祈りを捧げ、何もかも自分にかかっているかのように行ないなさい、とはよく聞く標語です。しかし、実際に実行するのはこの後半の部分だけというのが多いものです。そのため不完全な自分に不安を覚え、神の助けを受けるにふさわしくないと思い込んでしまいます。誠心誠意願ひ求めるならば、ほんのかすかな努力にも主は助けの手を差し伸べてくださることを、私は知っています。主が望まれるのは完全な努力ではなく、心からの努力なのです。

### 悔い改め——全力を要する大仕事

主は初期の聖徒たちに、この時代の人々には悔い改めのほか何事も語ってはならないと、繰り返し命じられました。(教義と聖約6：9参照)なぜでしょうか。その理由は、すべての人類にとって悔い改めは全力を要する大仕事だからです。

言語によっては、「悔い改め」という言葉には、否定的な意味合いがあります。これはラテン語の「罰」の意味から来ているからです。しかしギリシャ語では、心や気持ちを変えるという意味があります。私たちは後者のように理解すべきでしょう。(『悔い改めの意味』「聖徒の道」1988年11月号, pp. 9-13参照)

私たちが罪を隠し、その罪のための懲らしめを受けようとしなければ、いたずらに苦しみを長引かせるだけです。主は悔い改めなければ苦しみを受けると、警告しておられます。(教義と聖約19：17参照)今、自由意志を用いてへりくだらなければ、いつの日か靈の獄<sup>ひとや</sup>で罪の罰を受け、強制的にへりくだらされることとなります。どの人も、遅かれ早かれ栄光の王国に入る前に、罪を清められます。しかしもし、自分の弱点を認めれば、すぐ主による癒しが始まるのです。

いつも悔い改めつつ生活し、喜んでみたまを受けていれば、この不完全な



世にあっても幸せに暮らすことができます。そうすれば、たとえ自分や人が過ちを犯したとしても、もっと憐れみをもって見る事ができるのです。そして赦し、意見の相違を解決し、悔い改め、傷ついた関係を修復する力も増します。

### 聖霊の清めの力

へりくだってキリストのみもとに行き、主への信仰を行ないに表わし、悔い改めてみたまを求めると、もはや私たちは、感情を爆発させるか無言で苦しむしかない、無力な犠牲者として自分を見ることはなくなります。主が共にいてくださり、生活や人間関係を本当に改善できるということがわかるからです。

そして聖霊の働きによって、今まで知らなかった穏やかな希望を持てるようになります。それは、キリストの恵みと力によってすべての弱さが清められるという、平安に満ちた確信なのです。

福音の第一原則と儀式に従い、それを生活に生かしていくとき、悪しき思いと弱さから清められ、霊的に生まれ変わることができます。マリオン・G・ロムニー長老はこう語りました。「人は、聖霊の賜に内在する光と力を実際に受け、経験することによって、新たに生まれ変わるのである。」(『キ

妻のエマと意見の相違があった後、  
予言者ジョセフは主のみ前にへりくだり  
彼女の赦しを願うまで、金版の翻訳を続けることができませんでした。

リストの光』「聖徒の道」1977年10月号、p.474)

### 問題を正確に把握する

私のところに来たある女性は、養子の息子との間に問題があり、それに対処する方法を知りたいと願っていました。彼女の話聞いていくうち、問題のいくつかは子供の行動ではなく、彼女自身の清くない思いにあることがはっきりしました。

子供はいくらか障害を持っています。身体的な障害に加えて、成長期にある甘えの必要を生母が満たしてやれ

なかったため、それが情緒的な障害になって現われていました。

しかし養母にはそれよりひどい障害がありました。彼女は高慢病にかかっていたのです。幼かったころ、彼女の両親は世間体を気にして、子供たちに独善的な完全を求めたのです。外見と周囲の評価を極度に気にする家族でした。物質主義、地位、名声といった高慢にとらわれてしまったのです。人も自分も裁き批判する習慣を、身につけてしまいました。

養子にした子供が自分の期待にそぐわなかったとき、彼のために自分のイメージが損なわれてしまうという重大



な脅威を感じた彼女は、その養子に向かって攻撃に転じたのです。

私は彼女と共にモルモン経から聖句を読みました。そして彼女は、自分が外見的には宗教に熱心だったものの、思いは清くなかったことに気づきました。ある意味では、彼女は教会で活発だったけれども、福音のいくつかの重要な点で不活発だったと言えます。

この姉妹はこの世的高慢に陥ってしまったことに気づき始めました。その最も大きな証拠のひとつは、自分の力で問題を解決しようとしていた点でした。

問題がはっきりしてくるにつれ、彼女は希望を持ち始めました。自分への信頼でも、子供を正しく育てる能力への自信でもなく、イエス・キリストと、その癒し救う力に根差した希望です。悔い改めることによって彼女の態度も行ないも変わりました。聖典も勉強し始めました。ただ読むだけではありません。みたまを求めながら、また、主に望みと信頼を託しながら学んだのです。

この姉妹は今ではまったく別人のようです。まだ完全にはほど遠いし、子供の扱い方に問題がなくなったわけでもありません。しかし、問題に立ち向かううえで以前とは違う物の見方をしています。今や彼女は問題解決のために主と共に努力しているのです。

### 謙遜を学んだジョセフ・スミス

ジョセフ・スミスは謙遜であることと、主のみたまを受けることとの関係を、よく知っていました。デビッド・ホイットマーは次のように記しています。

「ジョセフ兄弟が翻訳しようとする……霊的な理解力が失われ、翻訳できないと感じることがあった。彼は自分の心がこの世の事柄にとらわれているからだと言ひ、様々なことが翻訳の妨げになるとも語った。そんな状態のとき、彼は外に出て祈り、神のみ前に十分へりくだったとき、初めて翻訳に取りかかるのだった。このことから、主がいかに厳肅なお方か、そして主から啓示を受けるには、人の思いが主のみ前にいかに正しくなければならないかがわかる。……」

たとえばこういうことがあった。ある朝、ジョセフが金版の翻訳に取りかかろうとしていた時、家のことでうまくいかなことがあった。そしてジョセフはそれに腹を立てた。妻のエマがしたことが原因だった。オリヴァと私は先に2階に上がり、間もなくジョセフもやって来て、翻訳にかかった。ところがまったく進まなかった。ただの一言も翻訳できなかったのである。そこでジョセフは階下に降りて果樹園へ行き、主に祈った。1時間ほどしてからだろうか。家に帰ってきて、ジョセフはエマに赦しを求めた。そして再び

2階に戻ってきたが、それから翻訳はすべて順調にいった。ジョセフは、謙遜で誠実なときのほかは何も翻訳できなかった。」(B・H・ロバーツ「教会概史」1:130—131)

### ジョセフにならって代価を支払う

私たちは代価を支払わずに幸福を願うことがよくあります。家庭の平安と、心に主のみたまを受けることを望みながら、高ぶりこの世の誤った価値観を捨てようとしません。

福音に従うには払うべき代価があります。しかしそれは人生が台無しになったり、家庭が崩壊することに比べれば、取るに足らない代価と言えましょう。

モロナイの次の言葉ほど愛に満ち、大きな慰めをもたらし、希望に満ちた教義があるでしょうか。

「キリストの御許<sup>みもと</sup>に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全<sup>まつた</sup>くなるならば、決して神の能力と権能<sup>ちから</sup>とを否定することができない。」(モロナイ10:32)□

# 小さな金の豆



フェリックス・アルベルト・マーチネス・デキュール

**妻**と私は子供たちに純粋な無私の奉仕の原則を教えたいと思いました。そこで、ある晩の家庭の夕べで、これから「小さな金の豆」というプログラムを行なうと、発表しました。

子供たち一人一人にふたのついたプラスチックの入れ物を与え、このように説明しました。「だれかに頼まれなくても自分から進んで家族のために奉仕したら、そのたびに豆をひとつ各自の入れ物に入れることにしよう。そして来週の家庭の夕べの時に、いくつ豆が入っているか数えることにする。一番たくさん豆をもらった人にはご褒美をあげよう。」

その結果、驚くべきことが起こりました。ほうきがいくらあっても足りないくらい、皆が先を争って掃除をしたがるのです。その1週間は、散らかしっ放しのおもちゃはひとつも見当たりませんでした。これでは1週間たたないうちに豆がなくなるのではないかと心配になったほどです。

その週、妻は足を骨折してしまい、足全体にギブスをは

めていなくてはなりませんでした。最初の3日間は絶対安静にし、足を高くしておくようにと医者に言われました。

言うまでもなく、このような状況は奉仕の機会を増やしてくれました。また、子供たちが奉仕の原則のすばらしさをどれほど理解できるようになったかを知ることができました。

ある日のことです。妻は安静にしていなければなりませんでしたが、居間にいたいと言ってソファに腰かけました。すると、末っ子のベチートが走って行って、足を乗せられるようにいすを持って来たのです。次に毛布を持って来ていすの上に乗せ、その上に母親の足を乗せました。

妻は息子の頭をやさしくなでながら言いました。「食器棚へ行って、豆をふたつ持っていらっしやい。ベチートのやさしい奉仕の分よ。」

ベチートは言われたとおりにせずに、母親を見上げてこう言いました。「ママ、豆なんかいらないよ。豆をもらうためじゃなく、ママが大好きだからしたんだ。」□

# 人生の移りゆく時期を楽しむ

**あ**る末日聖徒の母と娘が、お互いの年代の良いところを、笑いながら話し合っています。ふたりはそれを「願いの交換」と呼んでいます。母親はこのように言います。「あなたのようにさっそうと動き回れたらいいわね。」娘は答えます。「お母さんのように賢ければいいのね。」母親は続けます。「あなたにはいろいろなチャンスがあるわ。」娘は言います。「お母さんにはいろいろな知識があるわ。」

このふたりの女性は実に賢明です。自分の年代に与えられた祝福に対して感謝できるよう、互いに助け合っています。それぞれの年代にあって、できない事柄ではなくできる事柄に目を向け、まさしく次のような真理を悟っていると云えましょう。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。」(伝道3:1)

## それぞれの年代の喜びを味わう

どの年代にもそれぞれの良さがあります。20代の姉妹は家族の支えとなったり、教育を受けたり、職業に就いたりすることに大きな負担を感じるかもしれません。しかし、子供を育てたり、知識を広めたり、技能を磨いたりする喜びもあるのです。中年の女性は家族や仕事、肉体的な健康面で変化を経験することでしょう。けれども経験を通して身につけた知恵から得るものも多いのです。年配の女性は、だんだん体の自由が利かなくなり、愛する者を失うかもしれません。しかし、生きていることの喜びをこれほど強く感じる時もあるのです。

どのような年代にあっても、喜びに満ちた人生観を持つことができます。



ILLUSTRATED BY LORI ANDERSON WING

皆さん一人一人が天父の娘として自分を大切にし、自分自身や周囲の人々に祝福をもたらす方法がたくさんあることを理解していただきたいと思います。

あなたの年代が受けている祝福には、どのようなものがあるでしょうか。

## すべてのわざには時がある

あらゆる事が可能な年代というものはありません。神殿の推薦状の面接の時、ふたりの小さな子供を持つ母親がステーキ部長にもっと神殿参入をしたいと話しました。時間的、距離的、経済的な制約のために、思うように神殿参入ができないのです。ステーキ部長はこのように言いました。「マリヤ姉妹、あなたが神殿を愛し、神殿に参入する時を楽しみにしていることはよくわかります。しかし、今はできる時に参入すればよいのです。そのほかにも奉仕すべき大切な事柄がたくさんあ

ります。今に好きなだけ神殿に参入できる時がやって来ますよ。」

祈りを通して、各自で自分自身の予定表を作成し、それに従うのもよいでしょう。また、優先順位を定め、移り変わっていく人生のそれぞれの時期にふさわしい方法で、福音の原則を実践しましょう。信仰ある女性は、主のみ手が常に導いてくださることを知っています。「すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:6)

あなたの年代では、どのようにして主に仕えることができるでしょうか。

## 「明日を待つ」

末日聖徒の詩人エマ・ロー・ティネ姉妹はこのように語っています。「私はどの年代にあっても、その時々に参加したあらゆるものにより、はぐくまれてきました。そして、恐れではなく信仰があることに喜びを感じています。」次の詩は、このような心の平安を表わしています。

明日は来る。

心の平安は

明日何が起こるかを知ることから来るのではない。

明日がどんな日になるかを知ることからでもない。

それは、今まで学び、理解し、行動したことを通して得られた堅固な信仰から来る。

この信仰こそが私たちに告げる。

明日は来ると。

人生の苦難は、信仰をはぐくむうえでどのように役立つでしょうか。□



# どうしたら聖典を読むのが 楽しくなるでしょう

私には聖典が退屈なものにしか思えません。聖典のどこがそれほどすばらしいのか、わからないのです。聖典を読むのがもっと楽しくなるような方法があったら教えてください。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 回 答

こ のような悩みを持っているのは、あなただけではありません。しかし、退屈な気持ち乗り越えて、胸をわくわくさせながら聖典を読むこともできるのです。

大切なのは、自分を霊的に備えることです。どこにでもあるような雑誌を読んだり、テレビのショー番組を見るのであれば、取りたてて準備の必要はありません。このようなものは、あなたの内にあるこの世的な部分に訴えかける力がありますが、理解に苦しむということはまずありません。しかし、霊的な事柄を理解するには、特別な努力が必要です。ここに問題解決の一助となる方法をいくつか提示してみます。

**キリストの弟子として読む。**聖典を読むのは、主がそうすることをまさしくあなたに望んでおられるからである、ということをお忘れください。何事についても、主があなたに今何をしよう望んでおられるのか、尋ね求める必要があります。

**祈りの気持ちをもって読む。**読む前に祈ってください。あなたにとって知る必要のある事柄にたどり着けるよう、主の導きを祈り求めるのです。耳を澄ましてください。聖霊の力によって、

平安な気持ちや、理解の目が開かれたという気持ちを、感じるはずですよ。ただ、このような気持ちは見過ごしやすく、どちらか一方の耳でラジオの番組を聞き「ながら」では、おそらく感じ取れないでしょう。

**聖典の中に自らを見いだす。**ザアカイの話(ルカ19:2-6参照)を思い出してください。いちじく桑の木に登ったこの背の低い男は、実はあなたではないでしょうか。主は、あなたの注意を引こうとされたのではないのでしょうか。放蕩息子(ほうとう)の話(ルカ15:11-32参照)に出てくる「善良な」兄、これはあなたでしょうか。世の人すべてがそうであるように、あなた自身が、実は父の言いつけに従わなかったあの弟であることに、気づいたのでしょうか。「私たちの学問と利益になるように、すべての聖文を私たちのためと見立て」なければならないというニーファイ第一書第19章23節の勧告を、お忘れなく。自分自身が指示を受けている当の本人なのだとすることを、心に留めてください。

**問いかける。**あなたの心の中に浮かぶ質問が、実は聖霊の導きであり、これがきっかけとなって、神から自分に

授けられた道を探し当てる、ということもあります。少なくとも、いつも次のように自問するようにしましょう。「これを書いたのは、あるいは、語ったのはだれだろう。」「主は、だれに語りかけておられるのだろう。」「なぜこのようなことを言われたのだろう。」「私の生活にどのように適用できるだろう。」

**読んだ内容についてほかの人と話し合う。**敬虔な人々が聖典に関する意見や気持ちを分かち合うときに、霊的な思いがかきたてられます。これはマタイによる福音書第18章20節に記されたことと関係があるかもしれません。「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」両親に、ある聖句についてどう思うか聞いてみてください。思いも寄らない発見に驚くことでしょう。

**読み方を変える。**聖典は必ずしも1節1節、文章の流れに沿って読む必要はありません。ひとつのテーマ、ある特定の人物に的を絞って読むこともできます。ある聖句について書かれた注のすべてに目を通すことで、言葉というものが、必ずしも自分の思っていたような意味を持っているとは限らない、ということを見出す場合もあります。声に出して読むよう心がけるのもひとつの方法です。

**あきらめない。**太陽の照りつける中、険しい山を登り、骨を折って進んで行くときに、山登りのどこが面白いのだろうと、疑問に思うかもしれません。しかし頂上にたどり着き、美しい谷を眺めるときに、登ってよかったと思うはずです。聖典を読むことも、これに似ていると言えます。

## 若人の意見

私は2年前に会員になりました。モルモン経を初めて読んだ時、その内容が、今日の私たちが直面するいろいろな問題を解決するうえで、役に立つことがわかりました。

私は子供の時にあまり神のみ言葉が記された書物を読みませんでした。しかし実際に聖典を読み、理解し始めると、主を身近に感じました。私は聖典を読み、戒めを守る者には、祝福が与えられることを知っています。

聖典を読まないで、霊的に成長していないと感じたり、神の王国のこと、永遠の生命を受けるためになすべきことについて、学んでいないと感じたりします。



トンガ、  
ヌクアローファ  
東ステーキ部  
アフア支部  
シオーネ・H・  
ラトゥー(20歳)

私は聖典を読むとき、ちょうど冒険物語でも読むように、自分が登場人物になったような気持ちで読み、同じような体験を味わえるように努めます。こうすると興味もかきたてられますし、聖典の教えがどれほど大切かわかりやすくなります。

スペイン、バルセロナステーキ部  
コルネリヤ支部  
クラウディア・アルバレス・N(15歳)

私は聖典を読むときに、「きょう読む箇所は一体何について書かれているのだろう」「聖典を読んで福音にもっと改宗するには、どうしたらいいのだろう」といった好奇心を持つとよいことがわかりました。

毎日聖典を読めば霊的に成長できることを、私は知っています。聖典を読むときに、天父のみ言葉を学び、古代の予言者の知恵に学ぶことができるのです。

韓国、釜山<sup>プサン</sup>ステーキ部  
ウルサン支部  
キム・ヒー・ジン(19歳)

私は、学校から帰るとすぐに聖典を読むことにしています。食事や宿題の後で読もうと思っても、疲れて集中できないからです。

私は、特に印象に残った聖句、あるいは、よくわからない聖句があると書き留めることにしています。そのようにしておくで、後で参考にしたたり、もっと研究したりすることができるからです。

聖典を読むことによって、私は多くの祝福と、平安を受けています。



熊本地方部  
延岡支部  
三雲奈津子

私は、聖典を読んで内容について深く考え、祈る必要があると、インステ

イテュートで学びました。ひとつの聖句に何時間も費やして調べることもあります。いろいろな聖句と比較検討したり、読んだ部分について深い理解が得られるように、年輩の方たちに質問することもあります。私は、モルモン経の中のいろいろな出来事に自分自身を置き換えてみて、すばらしい経験をしたことが何度かあります。一番すばらしかったのは、リーハイが生命の木の示現<sup>じげん</sup>について説明した時に、自分もリーハイの子供のひとつとして居合わせたことを想像した時のことです。

どんな問題に出合っても、聖典を読むことで慰めを得ます。祈りの答えを聖典の中に見つけることもあります。

私にとって聖典の勉強は、テレビを見たり、夜外出したりするよりずっと楽しく感じられます。聖典は私の生活の大切な一部なのです。



ブラジル、  
アラカジュー  
ステーキ部  
アタライア  
ワード部  
シルバニア・ド・  
ナシメント・  
チャガス(23歳)

何年もの間、私には自分ひとりの力ではどうすることもできない問題が、いろいろとありました。かつて、そのような問題のひとつに出くわした時、私はモルモン経を読むという、ベンソン大管長のチャレンジを思い出しました。棚からこの聖典を取り出し、読み始めました。驚いたことに、自分の問題に対する答えがそこに記されていたのです。

以来、聖典は私にとって特別なものとなりました。問題に出会うたびに聖典をひもとくようになったのです。主は、私たちが意気消沈しているときに慰めを得、導きを受けられるように、聖典を与えてくださいました。聖典は正しい道からそれることのないように、私たちを導いてくれます。



フィリピン、  
サンボアング  
ステーキ部  
テツアンワード部  
ギルバート・F・  
セニーサ  
(19歳)

聖典を読む気になれないときが、私にもあります。そのようなときには、監督の助言を思い起こして、主の助けを求めて祈るのです。

天父が私の祈りを聞き、こたえてくださること、聖典を愛せるように助けてくださることを知っています。

アルゼンチン、  
レスステンシアステーキ部  
第1ワード部  
マリサ・ヨリス(16歳)

聖典を読んで学んだことを実生活に応用するなら、祝福を受けられます。問題を克服し、人生で出会う様々な試練に恐れずに立ち向かえるようになります。

サタンが私たちを道からそらし、欺き、聖典を読む気持ちを弱めたいと願っていることを、私は知っています。私たちは主を信頼し、聖典から導きを

得られるよう、聖霊の助けを願い求めなければなりません。救い主の次のような勧告を忘れないでください。「聖典を調べなさい。あなたがたは、聖典の中に永遠の命があると思って調べているが、聖典は私についてあかしをするものである。」(欽定訳ヨハネ5：39)



フィリピン、  
ツゲガラオ  
ステーキ部  
第4ワード部  
マリルー・バレオ  
(15歳)

私はセミナーに参加するようになって初めて、聖典を深く読むようになりました。古代の予言者が福音のために何をしたかを知ったのです。そして、自分がある目的、つまり神の王国を打ち建てるという目的のために生まれてきたのだ、ということに気づきました。福音が真実であるという知識も得ることができました。学ぶべきことはまだまだたくさんありますが、私は天父とイエス・キリストを愛しています。



グアテマラ、  
ウタラン、  
ステーキ部  
ジャクリン・  
カロリナ・  
マザリエゴス・  
カステイラノス  
(18歳)

聖典を読み学ぶことにより、人生に対する見方が180度変わりました。ど

うすればもっと深く人を愛せるかを学んだのです。一番すばらしいのは、聖典を読んで天父により一層近づけたことです。

聖典を理解できるよう祈ることに加え、次のようなことをするとよいと思います。

- 集中できる時間と場所を見つける。深く考えるのに役立ちます。
- すべての聖文を自分のためと見立てる。こうすると多くのものが得られます。
- 聖典の内容について友達と話し合ったり、教えたりする。
- 聖典について証を得たときは、それを友人と分かち合う。証を分かち合うのは、たとえようもなくすばらしいものであり、こうすると聖典をもっと愛するようになります。

台湾、高雄<sup>カオシオン</sup>ステーキ部  
新宮<sup>シンイン</sup>支部  
ルーザール<sup>ルーザール</sup>  
陸雅如(17歳)

専任宣教師時代、予言者たちの記録を読むことで、神がご自身のすべての子供たちに抱いておられる愛を感じられることを学びました。

聖典の中には、永遠の故郷へ帰るための完全な地図——無限に価値のある宝——が隠されています。聖典を開いて、歩き始めてください。

ポリビア、  
コチャバンバ大学ステーキ部  
コロソワード部  
ビルヒニア・ビーリャ・F(25歳)

私は聖典を読むとき、神の教えを読むことで、天父がどれほど喜んでおられるかを考えます。天父は私たちが青年の時知恵を得るように、望んでおられます。(アルマ37:35参照)

もし私たちに神に似た者となる力があるなら、聖典を読むことで、自らを備える必要があると思います。ボリビア、エルアルトサテリテステキ部  
ビーリャドロレスワード部  
ディオニシア・アバサ(14歳)

標準聖典を読み始めると、理解できない事柄に出合うかもしれません。章によっては長々と続くので、うんざりするかもしれません。しかし、聖典は天父のみもとへ戻る道を指し示してくれることを忘れないでください。聖典を通して証を得ることができるのです。

セミナーやインスティテュートに参加することで、私たちは、自分と同じ原則を知るほかの若人と一緒に学ぶことができます。



チリ、  
ラシステルナ  
ステキ部  
グラニャ第2ワード部  
ビクトル・オリバ  
レス・V(19歳)

私は13歳でバプテスマを受けましたが、当時は聖典を面白いとは思いませんでした。よく理解できませんでしたし、たまにしか読まず、どちらかといえばほかの書物を読むのが好きでした。

そんな時、ある日曜日にふたりの教会員が、聖典によって自分の生活がどのように変わったか、証をしたのです。自分なりに知ろうと努力していなかった私は、恥ずかしくなりました。それ以後、私は聖霊の助けによって聖典を理解できるよう祈り始めたのです。セミナーに出席するようになり、寝る前に聖典を読み始めました。今の私には、聖典は神のみ言葉であり、聖典を通して天父のみこころを知ることができるといって自分自身の証があります。



エクアドル、  
イバラ地方部  
エルエヒド支部  
ラケル・ヘレラ  
(19歳)

もし聖典が与えられていなかったら、私たちはどうなるでしょう。天父をどのようにして知るのでしょ。聖典のもたらす光と知識がなければ、人はどこへ行くことになるでしょう。

救いの計画も知ることなく、暗やみの中に放っておかれるでしょう。救い主についても知らず、自分の存在の意味すら理解できないでしょう。

以前、私は聖典を退屈なものと思っていました。しかし、いったん本気になって読み始めると、聖霊の助けがありました。それから読まずにはいられなくなったのです。

毎日聖典を読むことで、私は本当に助けられました。聖典は天父がすべての子供たちにあてて出された手紙のように感じます。聖典は、完全に到達するためになすべき事柄をすべて教えて

くれる、手引きなのです。ブラジル、サンタマリア地方部  
トランクレドネベス支部  
エリアナ・ディアス・セベロ

自分にとって大切な聖句は書き留めるようにします。ある原則を覚えてくれる聖句を紙に書き出し、目につきやすい所に張っておくと、いつか役立つはずですよ。

食物が体にとって大切なように、聖典は霊にとって大切だということも忘れてはなりません。一度記憶した情報はなかなか忘れないものです。そのような情報の中には、心を高めてくれるものもあり、逆に心を卑しくし、かたくなにし、聖霊の導きを受けにくくするものもあります。



フランス、  
ラングドック地方部  
カルカソヌ支部  
マヒレーヌ・バマル  
(21歳)

私は2年前にバプテスマを受けました。最初は、聖典に対して退屈な印象を受けましたし、そもそも理解できませんでした。この状況を改善しようとして、私はいくつかのことをしました。

まず、時間の調整です。1日のある時間を取って、その時間をすべて聖典を読むことに使いました。次いでモルモン経を、ある一定の期限内に読み終える目標を設定しました。また、聖典に記されている数々の出来事を追体験



できるように想像力を働かせて読みました。自分の読む箇所を理解できるように、いつも天父の助けを祈り求めました。聖句によっては監督をはじめ、いろいろな人と話し合い、理解を深めたこともあります。

こうして聖典は私の最良の友となりました。私は聖典が神から与えられたものであることを知っています。

パラグアイ、

フェルナンドデラモラステーキ部

サンロレンソワード部

イングリッド・M・ハイニング(17歳)

神に助けを祈り求めるならば、聖典を退屈だと思ふ気持ちは消え去ります。聖典は、慰めの一番必要なときに、それを与えてくれます。聖典は、楽しい経験だけでなく、苦しい経験もしなければならぬと教えてくれます。(教義と聖約29:39参照)聖典を通して、聖霊は問題の解決策を見いだせるよう助けてくれます。



コロンビア、  
ククタ地方部  
サンアントニオ  
支部  
ホセ・グレゴリオ・  
ドゥーケ・  
モラレス(23歳)

現代はサタンが最も威を振るい、人を誘惑し、落胆させようとしている時代だと思えます。モルモン経を読もうとすると眠ってしまうことがよくありました。しかしそれは、夜、横になって読むから眠ってしまうのだと気づき

ました。そこで、昼間、明るい時に机に向かってきちんと座り、読むことにしたのです。(これは良い学習習慣を身につけることにもなります)

聖典は生活の中で、とても大切な役割を果たしていると思います。聖典を通して、神が望んでおられる事柄を知ることができるからです。しかも、この聖典を通して喜びに満ちた人生の基礎を築くことができるのです。

メキシコ、メヒカリストステーキ部

ナシオナリストワード部

エリカ・A・アコスタ・カリヨ(16歳)

聖典を読むときに、読んでいる内容を映画で見ていると想像してください。私は、救い主が山上の垂訓を伝えておられるところ、また、モロナイが軍隊を率いているところといった、劇的な場面を心に思い描きます。

私は聖典学者になるという目標を立てました。そのためには標準聖典を何度も読まなければなりません。理解できない言葉に出くわすと、辞書で調べます。

ドミニカ共和国、バラホナ地方部

バラホナバティ支部

クリスチャン・ラミーレス(18歳)

聖句を色分けして、色の違いでテーマの区別がつくようにすると、とても便利です。

また、心を高めてくれる聖句をカードに書き出し、いつも携帯していると、ちょっとした助けや慰めが必要なときに、参考にすることができます。私は

この方法で聖典に親しむことができると思っています。



東京東ステーキ部  
鎌ヶ谷ワード部  
岡本由起

下記の質問に対する皆さんの意見をお待ちしています。締め切りは1993年1月1日です。あて先は下記のとおりです。

#### QUESTIONS AND ANSWERS

International Magazines

50 East North Temple

Salt Lake City, Utah 84150

U.S.A.

氏名、年齢、住所、所属ステーキ部、ワード部名を明記のうえ、母国語で意見をお寄せください。こちらで翻訳いたします。手書き、ワープロ、いずれも可。できれば写真を同封してください。ただし返却はいたし兼ねます。匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。お便りがすべて採用されるとは限りませんので、あらかじめご了承ください。

質問——たばこやお酒を一度だけ、どんなものか知るために試してみたいのはだめでしょうか。二度と手を出すつもりはありません。もし一度だけなら、どんな害があるというのでしょうか。□

# イノシの黄金の本

シャーリーン・ミーク・サンダース

最初、イノシはその本を欲しがりませんでした。  
しかしそれを読むことで、彼の家族の人生は大きく変わりました。

「宣教師が嫌いだったら、そう言ってあげてくださいな。」マリアン・ナガは夫のイノシに頼みました。「彼らだって普通の人間なのよ。守りもしない約束はしないです。」

イノシが末日聖徒の宣教師に初めて出会ってから、1年近くが過ぎようとしていました。マリアンはその間ずっと、夫が宣教師とした約束を断わるための口実を考えてきました。マリアンがいくら頼んでも、イノシは相変わらず宣教師のメッセージを聞こうとはしませんでした。彼はただ、宣教師をうまく追い払う方法を知らなかったのです。

フィジーの農務長官の秘書であるイノシ・ナガは、ある日の昼休み、フィジーのナゾーリ通りで宣教師に出会いました。宣教師が差し出した本を欲しいとは思いませんでしたが、あまりにもしつこいので結局受け取ることにしました。「これは黄金のように貴重な本です」と彼らは言い、約束を作ろうとしましたが、イノシは家は遠いし——本当は近くに住んでいたのですが——仕事場でも忙しすぎて会えないからと断りました。そして、たまたま通りかかった義兄にそのふたりの長老を紹介し、そそくさとその場から逃げ出しました。

それから2週間後、イノシが玄関の戸を開けると、驚

いたことにそのふたりの長老が立っていました。義兄が彼の住所を教えたのです。イノシはふたりを夕食に招き入れましたが、「心の中では『帰ってくれ、帰ってくれ』と言っていました」と回想しています。

それからというもの、宣教師たちは定期的に訪問してくるようになりました。イノシは、彼らが来るとわかっている夜は、もう帰っただろうという時間まで家に戻りませんでした。

イノシは、振り返ってみると1974年4月、赤ん坊が生まれてわずか1日で亡くなったころから、自分の態度が変わり始めたと言っています。息子を失ったのをきっかけに、神や宗教について真剣に考えるようになったのです。6月の第2週目に新しいふたりの宣教師がナガ家を訪問した時には、イノシは耳を傾ける準備ができていました。長老のひとりが、彼らがもう1年以上も宣教師から福音を学んでいることを知って、バプテスマを受けるようにチャレンジしました。

イノシはそのチャレンジを受け入れました。

マリアンは自分の耳を疑いました。こう語っています。「これもいつもの『約束』なのではないかと心配でした。でも直接主人に聞いてみて、表情から本気だとわかりました。」





PHOTOGRAPHY BY SHIRLEE MEEK SAUNDERS

ナガ兄弟は、フィジーでセミナリー地区指導主事として働くために政府の仕事に辞職した。それ以後、ステーク部長、教会教育部地域教育部長補佐として責任を果たしてきた。ナガ姉妹は現在、ワード部初等協会会長を務めている。主が自分たちを必要とされるときは、そのとおりに仕えるというのが、ふたりの責任に対する態度である。

マリアンは喜びに心を躍らせました。「このことが私たち家族に大きな変化をもたらすことがわかっていましたからです。」

ナガ夫妻は、その週毎日宣教師から教えを受け、1974年6月14日、バプテスマを受けました。

ナガ家族が教会に入って間もなく、支部長はふたりに神殿に行く準備をするようにチャレンジしました。「神殿について話すたびに、支部長は目に涙を浮かべていました。」ナガ兄弟は思い出してこう語ります。「それを見るといつも、『これは真実に違いない。彼の証は私の魂にしみ込むようだ』と感じました。」

マリアンとイノシはそのチャレンジを受け入れました。貯金は一銭もありませんでした。どうやって旅費を捻出したらよいのでしょうか。ふたりは牛肉を食べるのをやめ、ココアや麦芽飲料を飲むのもやめて、その代わりにベレ(ほうれんそうに似た野菜)や魚の缶詰を食べ、レモン葉のお茶を飲んで貯金をし、神殿の旅費に充てることに決めました。ふたりが4人の娘にそのアイデアを話すと、4人とも賛成し、いつも目標を思い出させてくれました。

そのころ、イノシとマリアンは首都スーバに引っ越しました。ナゾーリでは家具つきの家に住んでいたのですが、新しい家に置く家具はまったく持っていませんでした。彼らは床にマットを敷き、その上で眠り、食事をしました。友人や親戚の中には彼らをあざける人もいました。「みんな私が公職に就いているので立派な家具を買う余

裕があるはずだと思ったのでしょうか。しかし、私たちは神殿に行くための費用をためたかったのです。」

1976年10月、イノシは教会教育部からフィジーのセミナリー地区指導主事としての仕事を勧められました。イノシは初め、引き受けるのを躊躇していましたが、それもフィジーの教会教育部の地域教育部長であるジョセフ・ソキア兄弟からこう言われるまでのことでした。「もしセミナリーの仕事を引き受けてくだされば、あなたはこの地域の若人の人生を変えることができますでしょう。」

この言葉にイノシは心を動かされたのです。以前、地方部長との面接の中で、もし必要とされたら喜んで教会のために専任で働く気があるかどうか尋ねられたのを思い出しました。イノシはそれに「はい」と答えたのでした。そして、今こそその決心を実行する時が来たのです。

12年間務めてきた政府の職を去るのは簡単なことではありませんでした。イノシは、年金、公職上の特権、海外出張の機会を失いました。「でも、自分が行かなければならないことがわかっていました」とイノシは語ります。親戚や村の人々の中には、その決断に不満を抱く人もいました。政府でのイノシの地位を誇りに思っていたので、彼は間違った選択をしていると言うのです。しかし、マリアンは夫を支持し、こう言いました。「あなたが連れて行ってくださる所なら、私たちはどこにでもついて行くわ。」

イノシは退職するに際して、有給休暇の代わりに退職

ナガ家族は、福音の原則を取り入れることによって家族が持つ力を知った。左から、エミリー、ケレシー、ビリマイナ、マリアン・ナガ姉妹、イノシ・ナガ兄弟。前列、イノシとレウーア。(アナはプリガム・ヤング大学ハワイ校に在学中のため写真には写っていない)



金を請求しました。新しい責任上、頻繁に旅行することになるため、マリアンも仕事を辞めて退職金をもらいました。ふたりの退職金をそれまでにためた金額と合わせてみると、娘たちと共にふたりが神殿に行くのに足りるだけあることがわかりました。

ナガ兄弟はこう語ります。「飛行機に乗った時、私のポケットには102ニュージーランド・ドルがありました。それが私たちの全財産でした。ニュージーランドでの2週間の生活費をどうやって払ったらいいのかわかりませんでした。」

しかし、飛行場でナガ家族を出迎えてくれた教会員たちは、会員の家に泊まれるように手配してくれ、食事を提供し、送り迎えの便宜も図ってくれました。

「神殿から帰った後、主は私たちを祝福してくださいました。家具を買えたばかりでなく、家の増築さえできたのです」とナガ兄弟は言います。

1983年6月12日、ハワード・W・ハンター長老によってフィジー・スーパースターキ部が創設され、イノシは最初のスターキ部長として召されました。「何と言ったらいいのかわかりませんでした。この召しにもっとふさわしい人がいると思ったからです。」その時のことを思い出してこう語ります。「しかし、この島の兄弟姉妹に仕えてこられたことに感謝しています。すばらしい特権と機会を与えられました。」

それから間もなく、ナガスターキ部長は教会教育部地域教育部長補佐となるための面接を受けました。自分は

その責任を十分に果たせるだけのふさわしい教育も受けていないし、その資格もないと断わると、スーパーバイザーのロバート・ペリングトン兄弟はこう言いました。「このことについて一晩中考えましたが、今朝の4時、あなたの名前がはっきりと浮かんできたのです。」

ナガスターキ部長は家に帰り、マリアンと相談しました。ふたりでしばらく祈った後、マリアンはこう言いました。「あなた、戻ってペリングトン兄弟に、指導者の兄弟たちが望まれるなら、やってみますって伝えてください。」

ナガスターキ部長は責任を果たす中で祝福を受けてきました。「主が責任を与えられるときには、それを果たすための方法も備えてくださるのです。」

それから9年がたった今、イノシ・ナガはフィジー、ニューカレドニア、バヌアトゥ、ツバル地域の教会教育部を管理しています。最近スターキ部長を解任され、現在は教会広報部フィジー地区担当ディレクターとして働いています。マリアンはワード部初等協会会長の責任を受けており、6人の子供たち、アナ(22歳)、エミリー(20歳)、ケレシー(18歳)、ビリマイナ(15歳)、レウーア(13歳)、そしてイノシ(9歳)は、福音が家族にもたらす力を感じながら成長しています。

イノシ・ナガが宣教師からその本を受け取ってからほんの数年間で、彼と家族の人生は永遠に及ぶ変化を遂げました。長老の言った「これは黄金のように貴重な本です」という言葉はまさにそのとおりだったのです。□

## 彫刻

# 第2回国際美術コンテスト

グレン・M・レナード

世界各国の末日聖徒の芸術家たちは、  
教会歴史美術館主催の第2回国際美術コンテストの美術作品の創作に当たり、  
聖典に対する理解を形にしました。（「聖徒の道」1992年2月号参照）

「聖典にテーマを求めて」と名づけられた今回の展示には、  
聖典の中の物語や教えに基づく絵画、彫刻、キルティング、陶器など  
200点以上の美術作品が出品されました。

今月号ではそれぞれの作品を通して  
聖典がどのように表現されたかに焦点を当ててみましょう。



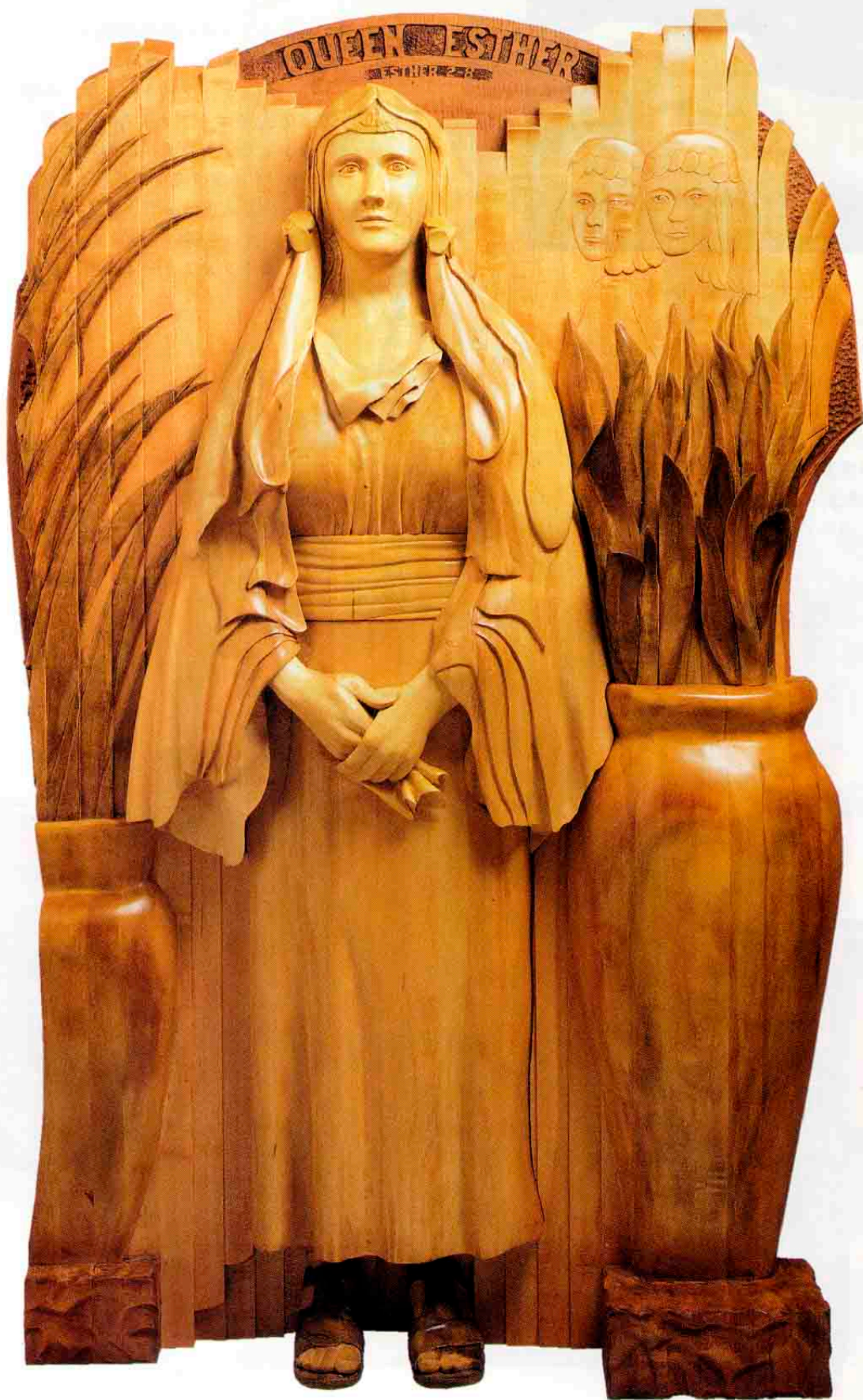
良き羊飼

インドネシア、ジャカルタ地方部ボゴール支部、スタディオノ作、

木彫り・彩色。「救い主はこう言われました。

『わたしはよい羊飼<sup>ひつじかい</sup>であって、わたしの羊を知り、  
わたしの羊はまた、わたしを知っている。』

（ヨハネ10：14）」



王妃エステル  
ニューヨーク州  
ロチェスター・  
パルマイラ  
ステーキ部  
フェアポート  
ワード部,  
ロジャー・W・  
オーティス作,  
木彫, 素材-カエデ。  
「エステルを通して  
女性の大切な役割を  
思い起こすことが  
できます。」  
(エステル  
2-10参照)



「<sup>あめ</sup>天が下のすべての事には季節がある」  
 アイダホ州ボイスステーキ部ボイス第25ワード部、  
 ジョン・A・ター作、木彫、素材—シナノキ。  
 「それぞれが象徴となっています。  
 すなわち、種は将来の成長の可能性を表わし、  
 果実は成長して成熟した状態を表わし、  
 頭蓋骨は現世と死を表わしています。  
 掛け布はこれらの概念をひとつに統合しています。」  
 (伝道3：1—2参照)

ニーファイ人最後の戦い  
 ベネズエラ、カラカス、  
 ビクトール・デ・ラ・トーレ作、木彫。  
 「この作品をニーファイ人の予言者  
 モルモンと息子モロナイに捧げます。  
 側面のパネルはクモラの丘近くでの  
 レーマン人とニーファイ人の  
 最後の戦いを描いています。」  
 (モルモン8：2—4参照)







「バプテスマを  
施すには  
右の方法を以て  
行わざるべからず。」  
(IIIニーフアイ11:27)

オレゴン州  
コルバリスステーキ部  
ウォルドポート支部,  
ウェイン・テイソン作,  
鑄金

「私はバプテスマの  
水から上がってきた  
若い女性の心の動きを  
とらえたかったのです。  
彫刻の一番上の部分の  
円弧は、  
彼らを取り巻く聖霊を  
表わしています。」

ほかの羊への主の訪れ

コロンビア・ボゴタステーキ部ノルテワード部,  
クリスタ・クリスティアンス・デ・サティサバ作, 粘土・彩色。

「コロンビアの人々に

イスラエルの家の子孫としての受け継ぎを思い起こしてもらうため,  
ボゴタに作る予定の記念碑のひな型としてこれを作りました。」

(IIIニーファイ17:10参照)



ダビデ

日本, 松山地方部松山支部,  
竹内みどり作, 籐細工。

「サウルは……言った。  
『じょうずに琴をひく者を  
捜して, わたしのもとに  
連れてきなさい。』」

(サムエル上16:17)

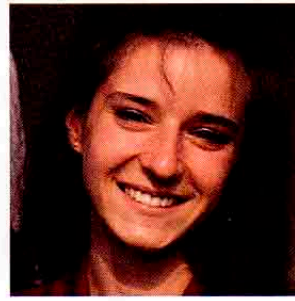
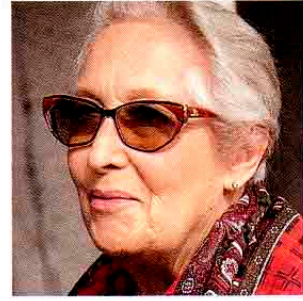
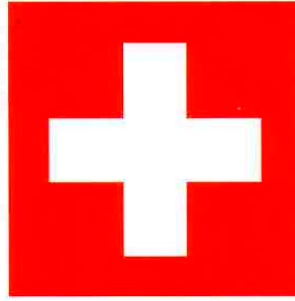




ばんさん  
最後の晩餐

ドイツ、ハンブルクステーク部ブレーメン第1ワード部の6人の女性  
 (ゲルリンデ・ゲセル、ブリジット・ファーステル、シーグリンデ・ノバク、  
 インゲトロート・リーメル、イルセ・セルバラジャ、  
 ローゼマリー・トロケ)から成るブレーメン陶器同好会作、陶器。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、  
 祝福してこれをさき、弟子たちに与え〔ら〕れた」(マタイ26:20, 26参照)



# 国際都市ジュネーブ ——統一性と多様性

ベトリーア・ケリー

「ジュネーブでは、世界のあらゆる境もなくなります。」この美しいスイスに在住する、マイク・キャノン兄弟は言います。もしも世界に目に見える境界線があったとしても、きっとジュネーブでつながっていることでしょう。

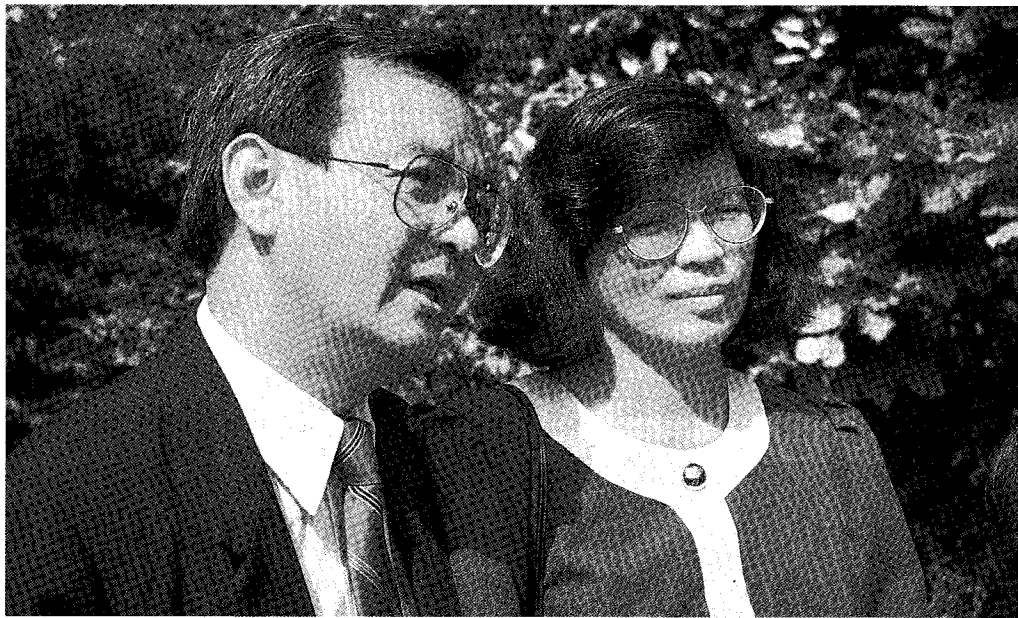
ジュネーブには、世界保健機関の本部と国際連合のヨーロッパ本部があります。また、国際赤十字の本部をはじめ、250以上もの国際機関が集まっています。ジュネーブでは、毎週のように様々な平和会議が開かれていま

す。16世紀までさかのぼると、ジュネーブは宗教改革の揺らんの地でもあり、以来、迫害を受けた人々、圧政に苦しむ人々を多く受け入れてきました。

右——ジュネーブ湖のほとりの壮大な大噴水は、140メートルの高さまで噴き上がり、昼夜を問わず自国の人々や、訪問者たちを歓迎している。







左——イタリア出身のマリオ・チエサ兄弟とマリア・チエサ姉妹。

マリオ兄弟はジュネーブ湖ワード部監督を務めている。

上——フィリピン出身のロドルフォ・デ・グースマン兄弟とマリリン・デ・グースマン姉妹。

気象学者のロドルフォ兄弟は「私の責任は、皆さんに日光を供給することです」と冗談を言っていた。

下——レューニオン島で、中国人の両親から生まれたヘレン・アーチェン姉妹は、

教会の国際機関誌を伝道に役立てている。

通りを歩いていると、フランス語、英語、アラビア語、ドイツ語、ポルトガル語、中国語、イタリア語、日本語、スペイン語など、たくさんの言語を耳にし、その言語で書かれた看板が目に入ります。

ジュネーブは、ジュラ山脈とアルプス山脈に挟まれたジュネーブ湖(レマン湖)の西岸に位置しています。バラの花や色鮮やかなヨットが日差しの中で輝き、有名な大噴水の水が140メートルの高さまで空中に噴き上がっています。

3つの末日聖徒のワード部の人々が、ルイカサイ通り32番地の建物に集っています。これらのワード部は国際都市の特質と国際的な教会の特色を、そのまま縮小しているようです。今回私がジュネーブを訪れたのも、その多様性でよく知られているこれらの教会を訪問するためです。福音を世界に広めるとき聖徒たちが経験する喜びとチャレンジの両方を、この地で目にするようになるだろうと、私は思っていました。

ジュネーブジュラワード部の監督、カール・スタッフラー兄弟はこのように説明し



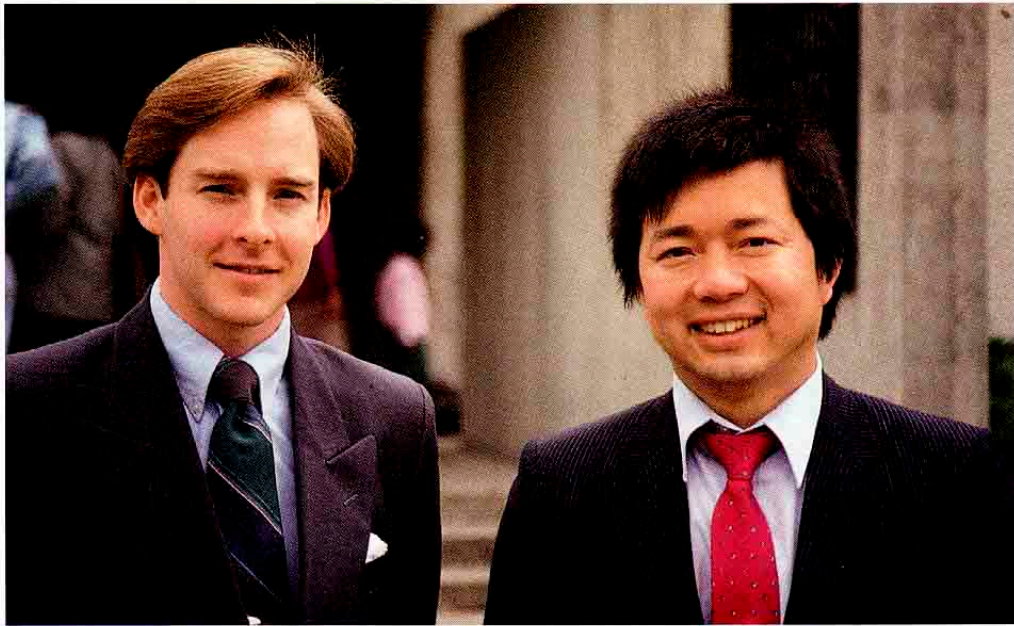
ています。「私たちは皆、それぞれに異なった言語と背景を持って集っていますが、お互いを理解し合っています。それは私たちが話すのは、福音についてだからです。

聖餐会の始まる前に、アダム・トーゴー兄弟と話をすることがありました。彼はアフリカのマリから、休暇を利用してジュネーブに観光に来ていました。そして、宣教師に会い、福音を受け入れ、バプテスマを受けたのです。彼は間もなく帰国します。

そばに居るのは、ブルース・クヌードセン兄弟と妻のアーディース姉妹です。彼らは、アメリカで教会員の家庭に生まれ、ナイジェリア、トリニダードトバゴ、バルバドスでの生活を経て、今は、世界保健機関の職員としてジュネーブに住んでいます。

後ろに座っているのはデ・グースマン姉妹と、6人の子供たちです。デ・グースマン兄弟は監督会の一員で、壇上に座っています。デ・グースマン家族はフィリピン出身でジュネーブに来て8年になります。

私は、レネ・ペオト姉妹のそばに座りました。彼女は気品のあるスイス人女性で、



上——アメリカ出身のスティーブ・ボールドリッジ兄弟とフィルマンド・リー兄弟は、ジュネーブにある国際的な研修機関で働きながら、法律を勉強している。

現在、フィルマンド兄弟は教会について学んでいる。

下——エクアドル出身のジェラルディン・シェバリー姉妹。

右——ピエール・ポーニー兄弟と妻のネリー姉妹(中央)、娘のパマラ姉妹とメラニー姉妹。娘たちはモルモン5世に当たる。

25年間教会に集っています。

一方、ワード部書記補助のローランド・クルーチャー兄弟は、教会に入ってからまだ6カ月です。

前の方に座っているのは、メラニー・ポーニー姉妹とパマラ・ポーニー姉妹です。彼女たちの先祖は、スイスでの初期の改宗者であり、彼女たちは5代目に当たります。

これらの3つのワード部の監督会の人々も、オーストリア、イタリア、フランス、フィリピン、カナダ、スイスなど、様々な国の出身者で、ジュネーブの教会の多様性を反映しています。ワード部の会員たちはヨーロッパ各地だけでなく、ペルー、チリ、ナイジェリア、イラン、エチオピア、タヒチ、ネパールなどから集まってきています。

これらの相違をよく活用できるのは、ワード部の活動の時です。お互いを理解し、学び合えるように協力するのです。国際色豊かな食事会や、イメージをふくらませた世界旅行ゲーム、様々な言語で



のファイヤサイドなどが行なわれています。それぞれの言語と文化には、私たちにとって有益な独自の特徴があります。

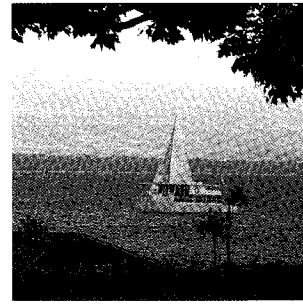
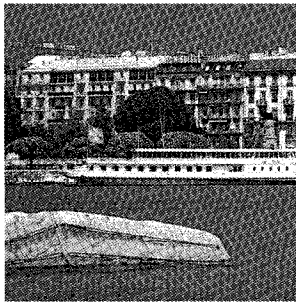
スタッフラー監督はこのように言っています。「たとえば、フィリピンの聖徒は、心を込めて分かち合うことを教えてくれます。多くの事柄を抱えて、忙しすぎることはないようにしなければ、と思い起こさせてくれます。また、愛し、分かち合い、理解することについて教えてくれます。」

ある会員はこう言っています。「スイス人は、教会で敬虔になるように教えてくれます。彼らは崇拜の気持ちを大切にしています。」

改宗したばかりの会員も何人かいます。スリランカ出身のラザ・ペレラは、自分に福音を教え、モルモン経について説明し、証を強めてくれるホームティーチャーに感謝しています。長年教会員として生活している人々がいます。たとえば、ガイ・ユーノド兄弟とタレバ・ユーノド姉妹の4人の子供たちは皆、伝道に出ま







左——ジュネーブ湖のほとりには世界的に有名な企業の建物が立ち並んでいる。  
中央——スイス人のレネ・ペオト姉妹は、教会員になってから25年になる。  
右——ジュネーブ湖に浮かぶヨット。

した。私が訪問した日、ステーキ部祝福師であるユーノド兄弟は、トルコ人求道者に通訳できる人を見つけた、と喜んで宣教師に話していました。

ジュネーブの教会員にとって大きな祝福となっているのは、20カ国語で入手できる教会の機関誌です。ある兄弟はこう語っています。「私たちは、母国語で教会機関誌を読めることを本当に喜んでいます。予言者の私たちへの変わらぬ愛を感じ、平安な思いに満たされます。」ヘレン・アーチェン姉妹は、機関誌をすばらしい伝道の道具と考えています。毎年彼女は友人をひとり選んで、年間購読の予約をしています。ある友人は教会に入りました。宣教師から福音を学んでいる友人もいます。まだ教会員にはなっていませんが、続けて購読している人もいます。コリン家族も友人たちに機関誌を渡しています。これが、教会の集會に友人が出席するきっかけになることもよくあるそうです。

私はフランス語で書かれたプレートに興味を持ちました。それは建物のロビーに掛けられていて、ジュネーブでの教会の歴史について書いてあるようでした。資料によれば、最初にこの地に伝道に来たのは、トーマス・B・H・ステンハウス長老で、ロレンゾ・スノー長老とイタリアまで同行した後、アルプス山脈を越えてジュネーブに着き、1850年12月に福音を宣べ伝え始めた、との

ことです。1851年2月に、スノー長老が到着し、スイスを伝道の地として奉獻しました。最初の改宗者のバプテスマは3月に施されました。その年の終わりには、ジュネーブの教会員は20人となり、1852年5月には支部が組織されました。

それ以来、教会は、迫害や抗争、時折の暴動も乗り越えて発展を続けました。多くの教会員は初期にアメリカに移住しましたが、スイスに残った聖徒たちは後の発展につながる堅固な基盤を築きました。非常に多くの人々が福音を受け入れ、回復された真理をほかの地域へと広めたのです。そしてほかの地で教会に加わった人々は、ジュネーブの成長しつつあるワード部に力を貸すためにやって来ました。

当初私は、言語や文化、年齢や教会での経験の違いなどに圧倒されるだろうと思っていました。しかし、共に賛美歌を歌い、祈り、礼拝をすると、そこにあったのは、偉大な一致の精神でした。救い主に対する証やモルモン経への愛情、ジョセフ・スミスが予言者であるという知識によってひとつとなっているのです。互いの相違が、溶けて消えてしまったかのようなようでした。言語や文化、食物の好みや衣服の違いは重要ではありません。私は、世界の境界線がひとつとなる地を訪れて、私の兄弟姉妹たちとひとつとなるのです。□



「新天地に到着するリーハイとその家族」クラーク・ケリー・プライス画

グロリア・ハリス氏の許可を得て掲載。

ニーファイは次のように記している。「かようにして、私たちは海上に何日も何日も暮した後、ついに約束の地に着 [いた。]」（1ニーファイ18：23）



「毎年夏になると、  
ロデオに出場するたびに、  
荒馬を日に3度も乗りこなすのは  
ひどく大変なことだと  
思っていました。  
しかし、伝道の大変さは  
ロデオのそれとは  
比較になりません。」  
ロデオ・チャンピオンの  
ゼイン・デービスはこう語っている。  
(本誌「荒馬を乗りこなす」p. 10参照)



# 幸福を得るために

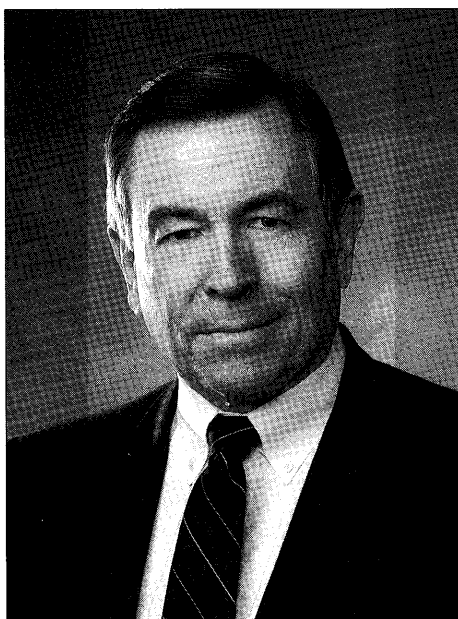
アジア北地域会長会会長  
W・ユージン・ハンセン

**主**は、私たちが幸福になるように願っていると、はっきり述べておられます。ニューファイ第二書第2章の次の聖句は、ほとんどの人が暗唱していることでしょう。「人類が現世に在るのは幸福を得んためである。」(II ニューファイ 2 : 25)

では、本当の幸福を見いだすにはどうしたらよいでしょうか。ある人が私たちに、「あなたは幸福になります」と宣言したとしましょう。はたして、その人は自分の言葉どおりに実現できるでしょうか。幸福を求める人に必ず幸福になれると保証してくれる、幸福の万能薬のようなものはあるのでしょうか。

私の経験では、他人に「あなたは幸福になります」と宣言できる人などいないようです。幸福と喜びは自分自身で得るものであり、徐々にではなくていくものです。権能を持った人は、祝福を受けることはできますが、それは幸福になると宣言することとは違います。祝福が慰めや導きをもたらす大きな力となることは確かですが、大抵の場合、祝福が実現するのは信仰と正しい生活を通してなのです。本当の喜びと幸福を得ようとする人には、祝福が用意されています。しかし、私たちは皆、自由意志を持っているので、この祝福を受けるための条件を満たし、戒めを守るかどうかは私たち次第なのです。

本当の喜びや幸福は、天父が喜ばれるような生活を通してもたらされます。



主は私たちが幸福になるために導きと指示を与えておられます。そのことを知ると大きな慰めになります。教義と聖約第52章14節には次のように書かれています。

「またわれ<sup>なんじ</sup>汝らの欺かれざらんために、あらゆるものに規範<sup>あんぱん</sup>を<sup>あ</sup>与<sup>あ</sup>う。そはサタン<sup>あまね</sup>普くこの地に在り、出で行きて諸々の国民を欺けばなり。」

この聖句からわかるように、主の計画には、私たちがサタンに欺かれないように、また本当の喜びや幸福を味わえるように、この地上で従うべき規範が用意されているのです。

私はこれまでの人生で、優先順位を決めたり、決断を下したり、進むべき道を選択したりするとき、この規範に

従うように努めてきました。私はイエス・キリストの福音という祝福と、福音によって私の人生に目的が与えられ、その結果心に平安と喜びがもたらされたことにとても感謝しています。

ここで、幸福な人生を送るために役立つと思われる、いくつかの提案を述べたいと思います。

1. 価値ある目標を持つ。一生懸命に働く。老若にかかわらず、楽しんで仕事をするを学ぶ。地域社会や隣近所にあつて貢献する。どこにいても、来た時より良い状態にしてからその場を立ち去るよう、常に心がける。

2. 自分を鍛える。肉体的にも精神的にも自己を訓練する。教義と聖約第88章、特に118節から126節に親しむ。自分の責任を果たす習慣をつける。

3. 純粋になる。誠実に行動し、高潔さを身につける。

4. 親切になる。人への思いやりの心をはぐくむ。愛を示し、相手の気持ちや状況に敏感になる。常に愛を実践し、感謝を示す。

5. 忠実になる。家族や教会、友達、隣人、国家に対して忠実になる。

6. 従順になる。みたまに従い、みたまの導きを求める。

7. 賢明になる。戒めを守り、予言者の言葉に耳を傾ける。永続するものを求める。それは、快樂と幸福を区別することでもある。

8. 奉仕をする。同胞のために働き、奉仕の人生を送る。

9. 赦す。復讐<sup>ふくしゅう</sup>心を抱かない。問

# 高齢で伝道に出る

題の原因についてよく考え、解決を図る。次のような主の言葉を心に留める。「主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。」(教義と聖約 64:10)

10. ありのままの自分である。主は私たちそれぞれにみたまの賜<sup>たまもの</sup>を与えておられる。また、一人一人の性格は異なっている。私たちには短所もあるが、それはだれでも同様である。だからこそ、常により良い人となるように努める必要がある。最終評価が下されるのはすべてが終わってからであることを心に留める。

「規範」を理解するに当たって、次のアルマの言葉は助けになるでしょう。

「私はあなたたちが謙遜<sup>ひんそん</sup>、従順、柔和であって容易に勧告に従い、忍耐強くよく堪忍し、何事にもひかえ目であっていつも神の命令を熱心に守り、肉体の上にも霊の上にも必要なものを願ひ求め、何物を受けてもいつも神に感謝をすることを望んでいる。

信仰と希望と愛とを必ず固くもつように心がけよ、そうすればいつも善い行いを多くするにちがいない。」(アルマ 7:23-24)

主が皆さんを祝福し、常に皆さんと共におられますように、また皆さんが幸福であるように願っています。

私たちも、ニーファイの息子のニーファイがニーファイ第四書の中で述べている民のようになれたらどんなによいでしょう。

「民はその心に神の愛を保っていたから、全国に何ら不和がなかった。

また、嫉妬<sup>しつと</sup>、争闘、暴動、みだらな行い、虚言、人殺し、および何らみだりがわしい行いがなかったから、まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」(IV ニーファイ 1:15-16)

皆さんへの愛と感謝の気持ちを伝えたいと思います。主なる救い主の誕生を祝う栄えある季節を間近に控えて、主のえり抜きの祝福が皆さんの上に注がれるようにお祈りいたします。これはイエス・キリストの真の教会です。主の聖なる名名により証いたします。アーメン。□

**高**年になって伝道に出るに当たり、心配に思う事柄やその解決法を考えてみました。

●成人した子供や孫たちと一緒に生活する必要があります。

一緒に生活するよりも伝道という模範の方が、よい結果がたくさん得られます。それがつくづくわかりました。私たちが子供や孫の心にまくものは、永遠にわたる実を生じます。

●若い宣教師についていけるだけの体力がありません。

私は1987年から1989年まで、タヒチ・パペエテ伝道部の伝道部長として、妻とふたりで働きました。私たちは伝道部の指導者として、年配の宣教師たちと一緒に、体力に応じて働きました。

●伝道費用は私たちには負担が大きすぎます。

もし家を貸して、家賃収入を伝道中のアパート代に充てることができれば、生活費は変わりません。「家……を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつぐであろう。」(マタイ 19:29)伝道地までの往復の交通費は、大半は教会が負担します。

●外国語の勉強、健康維持、レッスンの暗記など、とても無理だと思います。

使用言語の希望は慎重に考慮されます。健康問題も十分検討されたうえで任地が決まりますし、年配の夫婦はレッスンを覚える必要はありません。私たちの伝道では、これまでの教会での経験が役に立ちました。

申しあげたい点は、ニーファイのよう「行って行ろ」ということです。そうすれば、主が命じられたことを成し遂げるために「前以てある方法が備えて」あることがわかるでしょう。(I ニーファイ 3:7)

カリフォルニア州ラフィエット

ジョージ・ヒルトン、  
イボンヌ・ヒルトン

## 祈る決心

私は伝道に伴う不安について、真剣に祈る決心をしました。飛行機に乗ること、ほかの人の運転で車に乗ること、子供や孫を残して行くこと、伝道資金があまりないこと、65歳という年齢のことなど、自分の心配について包み隠さず祈りました。しばらくすると涙が止まり、心がとても軽くなりました。それで監督に電話をして、召しを受け入れたのです。

南アフリカ・ヨハネスバーグ神殿での召しを終えて1年がたちますが、16年前に先立った夫も、天父と同じように私のことを、喜んでくれているように思います。

アリゾナ州メサ  
フローレンス・G・ヤング

## 無用な心配

このお便りを書いている今、私と夫は伝道の召しを待っているところです。伝道を決断しようとしていた時期に、あれこれと無用な心配を重ねました。例を挙げてみます。

●家財はどうしたらいいか。

家や財産の管理は、どうにかできるものだとわかりました。主に仕えることの方が、ずっと大切なのです。

●人生のこの時期に、主は私たちに何をしよう望んでおられるのか。

祈った後で、このまま家に閉じこもって年老いていくのは、主のみこころではないと知りました。そこで主の導きに従う決心をしました。

●子供や孫たちは、伝道に出ることをどう思うか。

子供や孫たちが、伝道中の様々な支

# 不安と障害を克服するには

援や金銭面の援助を申し出てくれたので、最終的な決断が楽になりました。

オクラホマ州チコータ  
ロイス・ヒンツ

## 報いの多い経験

引退後の私たちは、どうすれば家を離れ、子供や孫たちを後に残して行けるだろうかと心配していました。ワシントン・スポーカン伝道部への召しを受けたとき、主がそこで私たちを必要としておられたことを知り、主の助けを祈りました。私たちは家やほかの財産を処分し、家具は子供たちに使ってもらうことにしました。

主は私たちに健康と体力を祝福してくださいました。家族関係も以前にまして親密になりました。伝道は私たちにとって、人生で一番幸せな報いの多い経験でした。

ユタ州ロイ  
エブリン・ティーン

## 人生が豊かになります

3年前、伝道に出る準備をしていた当時、私はいろいろな心配を抱えていました。私はひとりになる時間が必要なタイプの人間なのですが、まる1年はひとりになれる時間を持つなど、無理なことがわかっていたからです。1日中家にこもって過ごすのも、私には大切なのです。

その私に伝道部長は、カリフォルニア州サンディエゴに住む東南アジア人の間で伝道するよう割り当てました。伝道部長はきっと靈感を受けていたのだと思います。私はフェローシップ担当の宣教師になり、対象者は皆アパートから歩いて行ける距離に住んでいました。毎日出かけてもまるで近所を散歩するようで、理解ある同僚にも

恵まれ、必要なときに毎日30分の休憩時間を私のために取ってくれました。

心配しすぎて伝道をやめたりしなかったことを、どんなに感謝しているかわかりません。そのために私の人生はさらに豊かになりました。

アイダホ州フランクリン  
レベッカ・D・バックー

## 家族の応援

私たちはベネズエラ・カラカス西部伝道部への召しを受け、1992年7月20日にユタ州プロボの宣教師訓練センターに入りました。

留守の間、子供たちが助けてくれることになっています。娘夫婦は私たちの老親の面倒を見てくれますし、長男の家族は91歳になるしゅうとの世話をしてくれます。家庭を持っているほかの子供たちも、必要なときには手伝ってくれるでしょう。

出発の2週間前に、私の父に心臓の病気が出て、今まで以上に手がかかるようになりましたが、私たちのレーマン人の養女が来て、父と車いすの母の世話をすると伝えてくれました。両親は、自分たちを愛してくれる人たちに囲まれて生活できるのです。

カリフォルニア州ヴィスタ  
スー・タナー

## 伝道を恐れない

伝道を恐れないでください。伝道に出てください。妻のドラと私は、教会本部の建物で宣教師として働いています。

妻は銀行、私は教職から離れて、伝道に出る決心をしました。伝道の提出書類には9つの選択肢があって、希望順に番号を付けることができます。求道者を見つけて教える、家族歴史、福祉活動、教育、教会での指導と会員の

活動の援助、伝道本部事務所勤務、広報、神殿、訪問者センターです。

確かに私たちには健康上の問題がありました。しかしそれは多かれ少なかれ、だれにもある問題ではないでしょうか。私たちは担当の伝道管理者のおかげで、楽しい経験をしています。

ユタ州ソルトレークシティ  
G・レイ・ニューマン、  
ドラ・ニューマン

## 熱意

私たちは1年半の伝道に出る時、主と誓約を交わしました。主が私たちに祝福してくださいという約束があるからです。(教義と聖約82:10参照)私たちにどれほどの資格があるかと言えば、福音の基礎的な知識と何がしかの人生経験、奉仕への熱意だけでした。伝道があまりにもすばらしい報いの豊かな経験だったので、伝道期間の最後に、さらにあと半年間を延長してもらいました。それによって私たち自身と家族、私たちの集っていた支部が大きな祝福を受けました。

カナダ・オンタリオ州  
サウスボルキュバイン  
ダグラス・マギン、  
ジョン・マギン

## まとめ

1. 伝道から得られる祝福に心を向けてください。
2. 家族から援助を受けることを考えてみてください。大きな力になります。
3. 若い宣教師と同じ働きをする必要のないことを理解してください。
4. 「行って行こう」こと。主が「方法〔を〕備えて」くださることに信頼を置いてください。(「チャーチニューズ」1992年7月18日付)

# 4つの課題

伝道管理部の調査によれば、宣教師として奉仕する年配の独身女性や夫婦には、次のような、取り組むべき4つの課題があるようです。

1. **経済面**。十分なお金がないと考える人もいます。しかし、もし自宅を賃貸することができれば、通常、伝道中の生活費は自宅にいるのとあまり変わらず、経済的な事柄は問題にならないでしょう。また、伝道地の決定に携わる人々は、夫婦の経済状態も配慮しています。

2. **恐れ**。年配の宣教師の中には戸別訪問にしり込みする人もいます。しかし、年配の人々は必ずしも求道者を見つけるための戸別訪問などを

しなくてもよいのです。英文の宣教師用手引きには、年配の宣教師に向けて、次のように記されています。「皆さんは、戸別訪問や街頭伝道を必ずしも期待されているわけではありません。ほかの方法で求道者を探し、フレンドシップをし、教えるなど、それぞれの関心と能力に見合った活動を行ってください。

指導の責任を受けた宣教師は、福音を教え、フェロシップをし、大勢の新会員を教会に定着できるように助けることによって、教会員を強めることができます。」(pp. 18-19)

3. **健康状態**。伝道期間中、必ずしも健康が保証されるわけではありません

。しかし、年配の宣教師が伝道中に以前より健康になることはよくあります。伝道中は、はっきりした目的があるので摂生することができ、それが結果的に祝福となるのです。

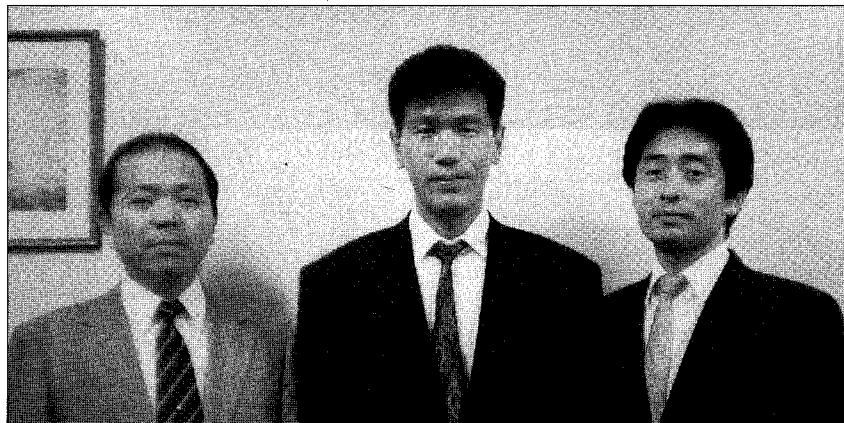
4. **家族**。年配の宣教師の家族は、親や祖父母が伝道に出ている間様々なチャレンジがあるかもしれませんが、多くの祝福も受けます。また、子供や孫がいて心配な人たちにとって、教義と聖約の勧告は励ましとなります。第31章には、トマス・マーシュが、福音を宣べ伝え、教会を強めるために召された時、受けた約束が記されています。「見よ、<sup>なんじ</sup>汝は先に家族のためにしばしば悩みたり。それにもかかわらず、われは汝と汝の家族に小きき児らに至るまで祝福を与えん。」(教義と聖約31:2)(「チャーチニュース」1992年8月15日付)

## ローカルニュース

ローカル

### 新たに組織された奈良地方部

去る6月28日、アジア北地域会長会会長のW・ユージン・ハンセン長老の管理の下に開催された大阪ステーキ部大会において、大阪ステーキ部から奈良地方部を分割する支持が取られました。これに伴い、新たに組織された奈良地方部地方部長として吹田栄二兄弟(写真中央)が、第一副地方部長として肥後深司兄弟(写真左)が、第二副地方部長として中野和男兄弟(写真右)が召され、その任に当たります。



## 主が導いてくださいました

奈良地方部地方部長 吹田栄二

**中**学、高校、大学と10年間、私は野球一筋に生きてきました。おかげさかもしれませんが、ほかには目もくれずといった生活でした。そんな私が、福音を知り改宗するとだれが想像できたでしょうか。日曜日は練習に明け暮れ、夜遅く、体も疲れ果て、家に帰れば入浴、食事、睡眠といったお決まりのパターンでしたので、教会に行くなどとても考えられませんでした。

大学1回生の時、練習が早く終わり、いつもより早めに帰っていたある日のことです。ふたりの宣教師が後ろから声をかけてきました。疲れて黙々と歩いていた私でしたので、最初はわからなかったのですが、何度か呼び止められて気がつきました。「私たちの話を聞いてくれませんか」ということでしたが、とてもそのような気持ちにはなれませんでしたので、いったんは断わ



りました。けれども話しているうちに、後日教会へ行き、イエス・キリストの福音を聞くことになりました。週に2、3回のペースで宣教師と会い、2カ月余りでバプテスマを受けることになり、自分でも驚いていました。教義も十分に理解していませんでしたし、クラブ活動などの兼ね合いもあり、不安でいっぱいでした。それでもできることから少しずつ自分自身を変え、生活もまた福音に添ったものに変えていけるように心がけていました。

そんなある日、長老定員会会長からの面接があり、長老の職を受けるようにとのチャレンジがありました。「吹田兄弟、あなたの安息日の出席率は75パーセントです」と聞いた時には驚きました。予想を上回る出席率の高さに自分の耳を疑い、聞き直したぐらいです。大学の野球部の練習は日曜日が休みになることが多く、高校時代のことを思うと考えられないことでしたので、大学に入りすぐ福音を聞く機会が与えられたのも、みこころがあったと感謝せずにはいられません。

私の両親は、当時教会に反対していましたが、ある日、私が教会で若い男性の責任を果たしていることを父が自慢に思っていると母から聞いた時、とてもうれしく思いました。いつしか私は教会の責任を果たすうえで、父に協力と助けを求めるようになるまでの良い関係になっていました。父がいつもよく助けてくれたことに感謝しています。そんな父も7年前に闘病生活の末、亡くなりましたが、すぐに私の夢に現われ身代わりのバプテスマを翌年受けることができました。霊界で父は必ず

や福音を理解してくれていると信じています。

1980年11月1日、東京神殿の献堂式に愛する姉妹と共に聖歌隊隊員として出席しました。予言者キンボール大管長にお会いするというすばらしい経験をした3日後の11月4日、神殿活動が開始される日に再び東京神殿へ向かい、神殿結婚をすることができました。当時私は無職でしたが監督のアドバイスによって結婚に踏み切ることができました。私は「監督が言うのだから」主が導いてくださると信じていました。

私は教員採用試験に合格して体育の教師になるのが夢でしたが、2度失敗していました。そのころ、民間会社に就職しましたが、勤務時間が長く家庭のことはもちろん、教会の責任などとても果たせるような状態ではなかったので数カ月で退職しました。

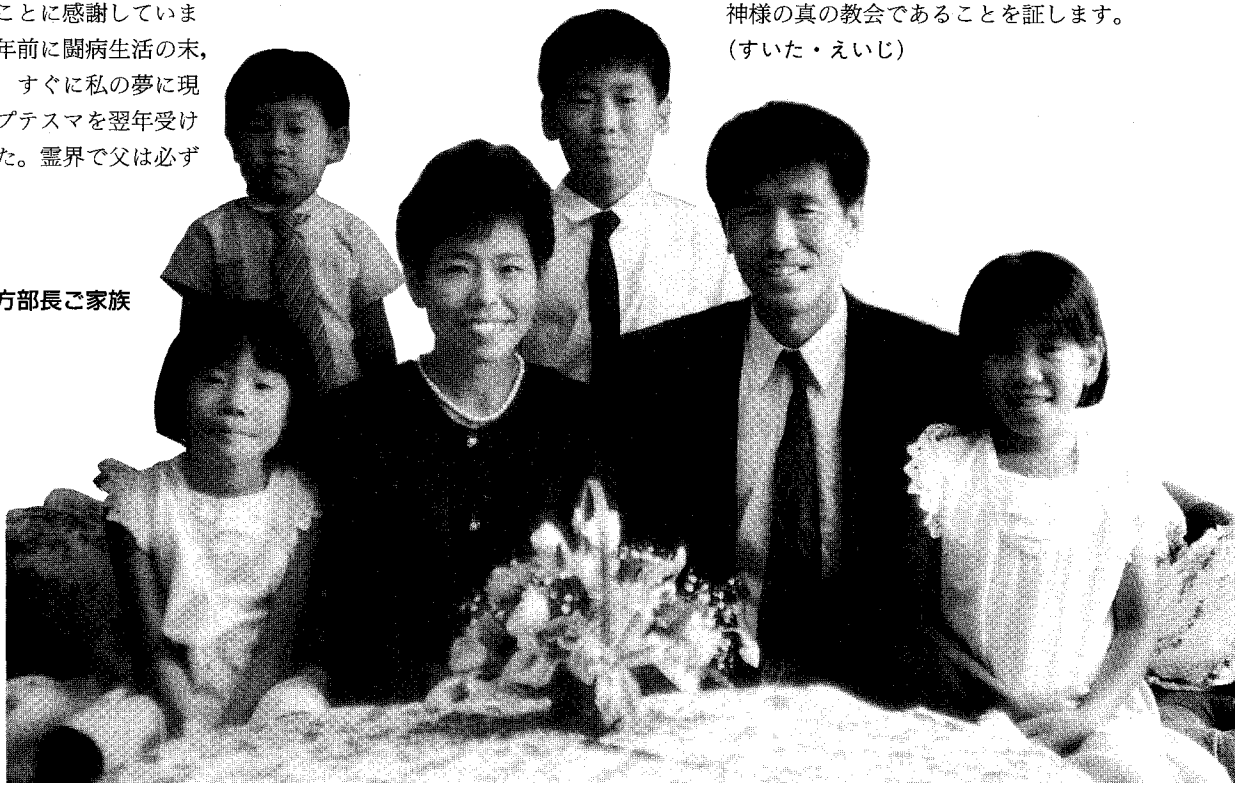
その後妻のひと言に励まされて再度試験にチャレンジし、結果は見事合格。貯金もどんどん減っていき、経済的に苦しい毎日でしたが、什分の一だけは必ず主にお返ししていましたので、試しの末の祝福であったと心から感謝しました。その時、妻のおなかにはふたり目の子がいたので、大変心配をかけたのですが、これで大丈夫だと思いました。家族も増え京都に引っ越しした時、ステーキ部は変わるものの10分ほど集える奈良ワード部へ行くべきかどうか

か悩みましたが、結局、高等評議員の責任もありましたので、以前と同じ前大阪北ステーキ部の城陽支部に集いました。2年目に支部長の責任を継ぐことになり、ますます、奈良ワード部に行きづらくなっていました。

しかしいずれ奈良ワード部に集うようになると思いましたが、それまでこの城陽の地で全力で頑張ろうと決心しました。わずか2年半程度の期間でしたが、兄弟姉妹たちの助けと愛に励まされ、とてもよい経験をさせていただきました。

今年5月末の大阪北ステーキ部の分割に伴い、私たち京都府相楽郡に住む教会員は正式に大阪ステーキ部奈良ワード部の管轄となり、奈良の地に来ることとなりました。ここで私にできることは何でもしようと思心しています。みたまのささやきに敏感になり、耳を傾けてそれに従えるようにと願っています。99匹の羊をおいて、迷った1匹の羊を探しに出かけた羊飼いのように、兄弟姉妹一人一人のために働きます。すべての会員が宣教師であるように、私も一会員として、そして宣教師として働けるように、第一副地方部長の肥後深司兄弟と第二副地方部長の中野和男兄弟の助けを受け、一致し、ひとつとなって奈良地方部の会員たちに準備されている祝福が豊かに注がれるように働きます。主が確かに生きておられ、この末日聖徒イエス・キリスト教会が、神様の真の教会であることを証します。(すいた・えいじ)

吹田栄二地方部長ご家族



# 障害を乗り越えて

<sup>よねざわしのぶ</sup>  
米澤 忍 兄弟は1985年3月31日、大阪でバプテスマを受け、2年後にアロン神権教師の職に聖任された。1962年に宮崎県で生まれ、1歳の時脳性小児まひと診断された米澤兄弟は、3歳で障害者施設に入園し、機能訓練を受け始めた。7歳で歩けるようになり、やがて旅行もするようになる。15歳になると大阪の養護学校に移り、卒業後は様々な福祉施設に入る。23歳で改宗してからは意欲的に教会の奉仕に取り組んでいる。また、この8月2日にはアロン神権祭司の職に聖任された。

現在は京都の授産施設で訓練を受けながらIC集積回路の組み立ての仕事をしている。両手両足は不自由であるが、積極的で活動的な性格で行動範囲も広く、ほとんど動かさない右手の不自由さを乗り越えるかのようにワープロで手紙も書く。

以下に紹介するのは、困難な状況の中でも前向きに生活している米澤兄弟の証である。



## 「頭をあげよ。元気を出せ。 予言の成就する時は近づきたり。」

(Ⅲ ニーファイ 1 : 13)

京都南ステーク部洛南中央ワード部 米澤忍

1962年8月3日、九州の宮崎県都城市内の病院でぼくは、3番目に出産しました。1番目と2番目のお兄さんが、ふたりとも、1歳で亡くなられました。1番目のお兄さんは、病気で亡くなられて、2番目のお兄さんは、布団の上で、体を反対向きで、顔と鼻を布団の上に当てて寝込んだまま、息が止まって、亡くなられました。このあと、ぼくが3番目に生まれました。ぼくは、鹿児島県にいたころ、1歳の時、寒い冬の日に、1週間も、高熱が40度もあって、お父さんもお母さんも、ぼくを抱かれて、雪が積もっている中は、車が動けないまま、あちこちのお医者さんを探し回っていた。やっと、宮崎県の都城市内にある国立病院でぼくは、1カ月間も、箱の中に入れて、毎日、注射をしながら、国立病院で入院していました。ぼくまでもう死んでしまうところだったので、お父さんも、お母さんも、ぼくのために、一生懸命、苦勞して、大変だった。

しかし、お医者さんに脳性小児まひ(脳性まひ)と判断されて、自分の足が動けなかったり、体中が障害を起し

てしまい、お父さんもお母さんもショックでした。3歳の時から、鹿児島市内にある「やまびこ整肢学園」に入園しました。「やまびこ整肢学園」のみんなから、ぼくをかわいがられていたこともありまして。ぼくは、3歳の時から、自分の足が、歩けない、立たないために、両足に、まっすぐ立てるための装具を付けたり、手すりを持って、歩いていたり、手すりを持たずに歩いていたりして、一生懸命、訓練しました。言葉も、自分の口で、しゃべれるように、一生懸命、訓練しました。やっと、7歳の時に、歩けるようになり、少しずつ、走ることもできました。また、言葉も、少しずつ、話せるようになりました。ぼくは、自分の力で歩いて、自分の力で話せるようになりました。訓練の先生も、学校の先生も、お父さんも、お母さんも、みんな、大喜びだった。大運動会で、ぼくは、よく走って、1等賞を3回も取ったことも覚えています。

間もなく、ぼくが7歳の時に、お父さんも、お母さんも、離婚してしまい、ぼくはとても悲しかったです。ぼくは、

このことは、何も知りませんでした。親子3人で、一緒に暮らしたかったのに、とても残念です。しばらくたってから、お母さんが、ぼくのために、いつも、「やまびこ整肢学園」によく面会に来てくれた。面会に、漫画の本やおもちゃ、お弁当まで作って、わざわざ持って来てくれたり、大運動会まで、応援に来てくれた最愛のお母さんだった。ぼくが、小学校の時に、お父さんだけが、大阪の堺に、仕事のために行っていました。小学4年生から中学3年生の間に、夏休みや春休みを利用して、お父さんの所へ遊びによく行きました。大阪城や浜寺公園のプールに泳ぐに連れて行ったり、甲子園に高校野球を見に行ったり、奈良や和歌山まで誘ってくれたお父さんだった。ぼくは、このころ、体が小さかったので、よく転ぶので、お父さんが、ぼくをおんぶしながら、いろんな所へ、遊びに連れて行きながら、よく汗をかいていました。お父さんが、一生懸命、汗をかいていた時に、ぼくがおんぶしている間に、タオルで、お父さんの汗をふいてあげました。でも、お父さんに、ぼくをおんぶされて、とても恥ずかしかった。

そして、15歳の時に、ぼくは、鹿児島から大阪の堺に移りました。「やまびこ整肢学園」を退園し、堺市内の堺養護学校中等部へ転校しました。15歳のころから、自分の耳も、だんだん聞こえなくなって、難聴障害になってしまいました。今でも、補聴器を使って、

聞いていたり、電話では、普通の音より、10倍の音を出して、お話しをすることもできます。15歳で鹿児島を去ってから、あるいとこのお兄さんから、「忍のお母さんが、忍が、『やまびこ』にいなかった時、ガッカリして、泣いていたよ」とか、「忍のお母さんが、かわいそう」とか、言ってくれたので、いとこのお兄さんからぼくに、お母さんが、ガッカリしている写真を見せてくれました。ぼくは、ガッカリしているお母さんの写真を見て、ぼくもガッカリしていました。そして、しばらくたってから、ぼくは、いつも、たったひとりで、九州の鹿児島、宮崎まで行って、お母さんの所へ、田舎に帰っています。今でも、たったひとりで田舎に帰って、母に会いに行っています。

お父さんに、クリスマスプレゼントとして、セーターを贈ったこともあります。お母さんの誕生日に、肩にかけたり、ひざにかけたりするマフラーをプレゼントしたこともありました。お父さんもお母さんも喜んでいました。

堺養護学校高等部に、園芸クラブで、園芸装飾技能検定試験2級を取っています。18歳で、堺養護学校高等部を卒業し、職業訓練校園芸科、福祉センター更生施設、身体障害者共同作業所「ナイス・ワーク」に、いろいろな福祉施設に入っていました。18歳の時から8年間も、一般の仕事、身体障害者をやとってくれる所がありませんでした。23歳の時、仕事が、なかなか見つからなかったのが、ぼくは、ガッカリしていました。ぼくがガッカリしながら、歩いていたところを初めて、ふたりの専任宣教師に、道で会いました。初めて、23歳で、末日聖徒イエス・キリスト教会に入って、バプテスマを受けました。そのころは、大阪堺ステーク部の堺ワード部の教会員として、ぼくは、いつも、三輪の自転車で、身体障害者共同作業所の「ナイス・ワーク」に通うながら、堺ワード部の教会に通っていました。ぼくは、毎月のように、第1の日曜日に、証会で証をしたり、お祈りをしたり、教会員でも、よく伝道したりしていました。また、堺ワード部の教会で奉仕するために、いつも、月曜日の日に、ぼくが、自分

から進んで、たったひとりで、掃除機を出して、教会の中の監督室や礼拝堂、台所、廊下、各部屋の掃除をしたり、トイレの掃除をしたり、教会の外の周りに、草取りやゴミ拾いをしていました。大阪堺ステーク部の小松忠ステーク部長が、監督の時に、「米澤兄弟、やさしいね。いつも奉仕してくれてありがとう」と言って喜んでくださいました。

この教会に入ってから、悩みや苦しみ、悲しみ、自分のつらい思いがありました。堺ワード部のみんなに、心配かけていたこともありました。堺ワード部のみんなも、一生懸命、ぼくのために、心からのお祈りをしてくれました。また、小松家族が、鈴木謙三監督が、雪平兄弟が、堺ワード部のみんながぼくのために、熱心に仕事も探してくれました。教会に入ってから、3年5カ月目にやっと、仕事が見つかりました。ぼくは、自分の力で、一生懸命、仕事を見つけて頑張ってきました。

仕事の「太陽の家」が決まった時、ぼくは、小松ステーク部長の家で、堺ワード部の教会の監督室で、鈴木監督の目の前で、涙を流しながら、泣いていました。日曜学校の開会のお祈りの時、ぼくが、お祈りしている時に、涙を流しながら、泣いていました。鈴木監督から「米澤兄弟、よく頑張ったね。私も、すごくうれいす。堺ワード部のみんなも喜んでます」と言ってくださいました。小松ステーク部長も、鈴木監督も、堺ワード部のみんなも大喜びでした。今は、京都の「太陽の家」の授産施設で、訓練しながら、仕事をしています。同時に、大阪北ステーク部の京都洛南支部の教会に入ってきました。京都の洛南支部でも、ぼくは、毎月のように、第1の日曜日に、証会で、証していました。また、洛南支部のみんなのために、よくお祈りをしていました。洛南支部の教会員たちも、大変、喜んでます。

そして1991年7月20日に、小松忠ステーク部長から、ぼくに、祝福を受けられました。小松ステーク部長が「米澤兄弟が、悩んでいた時でも、悲しんでいた時でも、つらい思いがあった時でも、自分ひとりで、自分の力で、一生懸命、忍耐して、米澤兄弟は、いつ

も、いつも、頑張っているから」と言ってくださいました。小松ステーク部長は、大変、喜んでいました。

この後、1カ月後に、8月25日に行なわれた大阪北ステーク部大会の一般大会で、たくさんの兄弟姉妹の前で、ぼくは、初めて、証をしました。ステーク部大会が終わってから、牧瀬ステーク部長が「米澤兄弟、ありがとう。よく頑張りました」と言いながら、牧瀬ステーク部長も、ぼくも抱き合いました。大阪北ステーク部のたくさんの兄弟姉妹から「米澤兄弟のすばらしい証をありがとう。」「ありがとうございました」と言ってくださって、喜んでいました。大阪北ステーク部のステーク部長会から、ぼくに、感謝状を受け取りました。小松ステーク部長から祝福をいただいて、大阪北ステーク部長会から感謝状もいただいて、ぼくは、すごくうれしかったです。ぼくは、もう胸がいっぱいです。

でも、後足りないのは、後ひとつだけです。それは、東京神殿に行って、エンゲウメントや身代わりのバプテスマを受けて、神殿結婚することです。ぼくは、バプテスマを受けてから、7年間も、まだ1度も、東京神殿へ行っていません。

バプテスマを受けてから、10年たったら、神殿に行くことにしたいので、ぼくは、今、準備しています。10年内(あと3年)で、神殿に行きたいと思っています。

皆さんの見えないところで、教会で、いつも、頑張っているの、心から感謝をしています。いつも、神様が、私たちのために、見守ってくださいたり、助けてくださったり、私たちが愛してくださいたり、神様に感謝しています。

私は、イエス・キリスト様を信ずる信仰を持っています。私は、イエス・キリスト様を愛しています。私は、イエス・キリスト様のように、いつも、証をしています。

これからもみんなで心を尽くし、全力を尽くして、みんなでお互いに頑張りましょう。最後にぼくの一言で書きます。「お祈り」と「証」とそして「伝道」をありがとう。(よねざわ・しのぶ)

# 学び続ける喜び

——戦中・戦後の混乱期を経て——

高崎ステーキ部高崎東ワード部 黒澤さき江

「おばちゃん、元気かい。おばちゃんの顔見に来たよ。」毎朝何人かのお客さんが、通勤途上にごう言いながら私の経営する薬店に立ち寄られます。17年前に夫に先立たれ、日曜以外は朝7時から夜9時半まで店に立つ私は、以前のように教会の奉仕活動に直接携われることはほとんどありません。せめて、店を訪れたお客さんの役に立ちたい。こんな願いを込めて「私の元気を半分あげますよ」と答えてお客さんに喜んでもらうのが、今の私にとって一番の楽しみです。

第一次世界大戦終結の約半年前、私は静岡県で生まれました。幼いころ私はキリスト教の教会に通ったり、姉も別のキリスト教会に加入したりして、少しではありましたが、イエス・キリストの教えに親しむ機会がありました。昭和10年、世は大恐慌のあおりを受けて不況が続いており、私は女学校は卒業したものの、両親にかかる負担を考えると、とても進学したいとは言い出せず、やむなく家にとどまってタイプや珠算などの習い事をしていました。一方では、別のキリスト教会に少しの間通ってみたりもしました。けれども数学が好きだった私は、勉学への夢が捨てられず、上京して働きながらある女子大学の薬学部に通い始めました。上京して間もなく出会って結婚した夫は別の大学で薬学を教えていましたが、兵役免除になり、日本軍から薬剤関係の仕事の依頼を受けて、研究に携わっていたようでした。

昭和19年、第二次世界大戦のさなか、私たちは満州に渡りました。軍の機密事項なのか、家族にも詳しいことは一切知らされず、私は在学中、前の年に生まれた長女を伴って夫と共に満州に行きました。哈爾濱から馬車で1日ほど走った所です。夫はここで最初薬草の栽培に当たっていたようでした。

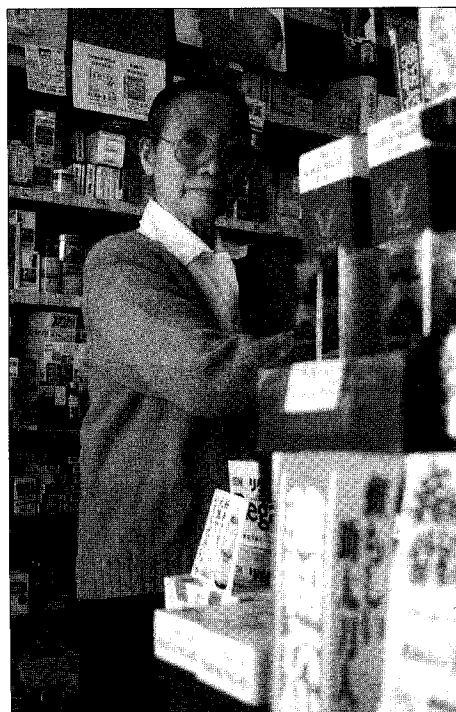
翌昭和20年8月14日、夫に召集令状が来て15日に応集しました。その日、日本は無条件降伏をし、終戦を迎えました。私たちはすぐさま哈爾濱に向かい、日本人の経営する病院に住み込み、救済事業に参加しました。この病院では、人種の区別なく、貧しい人には無料で医療を施しました。私たち家族3人は、多少広くはあってもひと間の部屋に寝泊まりし、わずかな食費の支給を受けて、満州北部から哈爾濱に避難してきた日本人の世話に当たりました。戦争に破れて住む所を追われ、生命さえも危うい中で、身の回りの品をわずかばかり持って哈爾濱まで避難してきたものの状況が困難なことに変わりはなく、私たち家族の住んでいた部屋に見も知らぬふた家族と共に生活した時期もありました。やがて私たちはその部屋も明け渡し、病院の研究室に寝泊まりするようになりました。

けれどもこうして雨露をしのぐ場所がある人はまだいい方でした。残りの人は結局路上に住むしかなく、病人は続出しました。冬になると気温は零下30度ぐらいまで下がり、家のない人々は道端で次々に凍死していきました。凍りついた大地には、埋葬することもままならず、想像もつかないほどたくさんの方が死んでいきました。

病院での救済事業は約半年続きました。病院はやがて国民党(蔣介石軍)に、後には八路軍(毛沢東軍)に接收されていき、救済事業も自由にはできなくなりました。

この年、私には終戦直前に双子の男の子が生まれました。しかし母子共に栄養失調のために、生まれたばかりの赤ん坊は10月、11月と続けざまに亡くなってしまいました。

終戦後約1年を経過した昭和21年9月、日本人の引き揚げが始まりました。ところが私たちは、夫が八路軍に強制



自営の薬店で働く黒澤さき江姉妹

抑留になったため、引き揚げることができませんでした。中国では終戦後も内戦が続き、製薬の技術のない八路軍は、夫に従軍して前線の病院で薬を作るよう命じたのです。私たち家族は、北は佳木斯から南は海南島まで数え切れないほど移動を繰り返しました。抑留中は勝手に動くこともできず、住まいを与えられてそこにとどまっているしかありませんでした。ある場所では木の扉の付いた泥の家に住み、冬の朝になると土間には家の中でも、たきもの用の草に霧氷が付いていました。食事は1年中真っ赤なコーリャンで、いい時でもアワ飯、おかずは白菜の水煮、いい時にはそれにもやしが入りました。コーリャンは皮が固く、おなかをこわすこともたびたびでした。

そんな状態が昭和26年まで続き、さらに1年、鶏公山という所に抑留になりました。このころは昭和26年末に始まった三反運動が激しく、精神的には一番苦痛な時代でした。三反対運動とは、政府機関、軍隊、学校、国営企業で進められた汚職、浪費、官僚主義に反対する闘争を指し、私たちは紙1枚捨てることはできませんでした。人々には週1回集められて思想教育が施さ

れ、日本人の子供たちも鄭州にある子弟学校に集められて教育されました。夫は当時銃殺されそうになったこともあり、銃殺されるぐらいなら自殺した方がいいと考えていたそうですが、薬が作れるために何とか命が繋がり、判決でも最終的には無罪が決定して生き延びることができました。

私自身も苦しみから逃れたい一心で、自殺しようと思いつめていた時期がありました。死を決意してすぐ近くを流れる川のほとりに立つと、きれいな歌声が聞こえてきます。その曲は幼いころ聞いた賛美歌でした。同じように抑留されていたカナダ人の宣教師が歌っていたのです。その声を聞いて我に返り、せつかく与えられた命を自分で縮めてはいけないと思いとどまるのですが、翌日になるとまた苦しくなり、時間をずらして川のほとりに降りると、また賛美歌を歌う声が聞こえてくるのです。そんなことを2カ月ほど毎日のように繰り返しましたが、結局死にきれませんでした。

昭和28年、薬を作り続けている限り日本へは帰れないと考えた夫は、それ以上薬を作るのを拒否し、7年にわたる抑留生活からやっと解放され、満州で生まれた男の子ふたりを含めて家族5人、やっとの思いで日本に引き揚げてきました。

私たちは夫の生まれた群馬県高崎市に戻り、親戚の厚意で高崎駅近くで薬店を営むことになりました。何もない私たちですので、家はボロボロの日暮らして、薬店でも商品として陳列している数点の薬のほかは空き箱で店を埋め、ひとつ売れたら補充して買い足すといった具合でした。しかも中国からの引き揚げ者という理由で、私服警官が、私たちが共産党寄りでないか、たびたび調べに来、それが1年くらい続きました。一番苦労したのは子供たちの教育で、日本語が読めず、語彙も少なかったため、長女などは2年下の学級に編入したにもかかわらず、先生の質問に答えられない有様でした。このころ再び宗教を学びたいと思った私は、あるキリスト教会で3年ほど勉強しましたが、結局加入はしませんでした。

帰国して10年が過ぎた昭和38年、私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会に改宗しました。最初に改宗した長男を、宣教師が頻りに訪ねて来ていたのがきっかけでした。私は自分から福音を学びたいと申し出、1カ月以上勉強して夫と次男と3人でバプテスマを受けました。ジョセフ・スミスの見神と、居住している国の法律に従うべきであることに納得したからです。当時夫が薬品の研究もしていたためにあいかかわらずの貧しい暮らしぶり、内職をしてやっと子供を学校にやっていた私たちにとって、什分の一を納めるのは大変なことでした。完納できない時期もありました。ただ元来

楽道家である私には、生活の貧しさ自体はあまり苦になりませんでした。「今は納められなくても必ず納められる日が来る。」戒めを完全に守れない苦しさはありましたが、目標を持って歯を食いしばって教会に通い続け、やがて什分の一も納められるようになりました。これにはあのどん底の抑留生活の経験が役に立ちました。物事を最後までやり遂げる意志力が非常に強くなり、恐れるものもはやなく、忍耐力も養われていたのです。実際、マイナス面をプラス面に転換しなければ生きていけませんでした。

昭和45年、19歳になった次男が伝道に出ました。私は次男の伝道資金を捻出するために、あいかかわらず、毎晩内職をしました。

昭和47年、私たちは田んぼの中の一軒家に店舗も合わせて引っ越しました。およそお客の来そうな場所ではなく、役所で「いい所に

引っ越しましたね」と言われても意味がわかりませんでした。翌年、店のすぐ前に一級道路ができる計画が発表され、10年後に群馬県で開かれた第38回国民体育大会に合わせて道路は開通しました。

このころから我が家の経済状態は少しずつ良くなってきました。お客さんも私がクリスチャンとして日曜日に店を閉めることを心得ているので、土曜日うちに買い物に来られます。家計がなんとか切り盛りできるようになると、精神的にも少し余裕が生まれ、かつて中断していた勉強を始めたいと思うようになりました。それにはもうひ

「広報たかさき」  
1992年3月15日付



「独学は難しいと思ひ、この学校に入学しました。楽しみながら勉強できましたね。卒業は、次の目標への出発点です」

三月二日、高崎高校通信制の卒業生二十三人中、最高齢の七十三歳で卒業した黒澤さき江さん。

戦前高等女学校を卒業後、薬学の専門校に進学しました

## 卒業は次の目標への出発点



高崎高校通信制を最高齢で卒業

黒澤さき江さん

(新保町)

知識がないと生活に潤いもないし、つまりませぬね」毎月二、三回の面接授業がありました。三学期は経営している薬店が忙しく出席するのが大変でした。「昔は数学が得意でした。今は英語と化学が好きですが難しくなりましたね」

だが結婚で勉強は断念。「私たちの年代は、戦争で人生を過ごしてきたよう

なもの。子どもに手が掛かなくなつたので、やり残した勉強を再開しました。

## 2度辞退した本採用

盛岡地方部一関支部 山崎弘貴

とつ理由がありました。私は昭和30年代に薬物に関する資格をふたつ取得していましたが、それでも薬に関する知識は夫に頼りっぱなしで、昭和50年に夫が亡くなってからは自分が知識を増す必要性を痛切に感じていたのです。そこで高校の通信教育を開始することにしました。この学校では学年にこだわらず卒業までに必要な単位を取得すればよく、薬店の経営で勉強に十分な時間をかけられない私でも、自分のペースで勉強を進めることができました。

一番大変だったのはスクーリングと試験でした。薬店の棚卸しをする年度末と学年末試験は時期が重なり、スクーリングに出席できず、一日にいくつも受験したことさえありました。教会の責任と重なった時には、責任を優先すると学校の登校日に出席できないこともありました。店の経営の片手間にするのですから、勉強する時間も思うようには取れず、レポートが提出できない時もありました。

だが苦勞はしても、勉強をしただけの価値はありました。まず、先生が講義の合間に話してくれる様々な話や、科学や物理の授業により、天地創造など、高い次元で福音を理解できるようになりました。また、文学を学ぶことにより、聖典の解釈の仕方が変わってきました。表現の美しさや、たとえ話についても深くわかるようになり、解釈する角度も変わってきました。世間的にも世の中が広く見えるようになり、理解するのが楽になりました。

結局今年3月に73歳で卒業するまで、約10余年の歳月を要してしまいました。そして現在は次の目標に向かって、勉強をしています。朝起きて夜11時に床に就くまで、忙しい生活の合間を縫って、ラジオで英語や数学を学んでいます。これからも、生涯学び続けたスペンサー・W・キンボール大管長の妻、カミラ・キンボール姉妹のように勉学を続け、健康な限り奉仕をしたいと思っています。主は偉大なる科学者であり、芸術家であり文学者であり、おそれ多い救い主であることを証いたします。(くろさわ・さきえ 初等協会教師)

1989年3月末、私は岩手県の片田舎、遠野駅に立っていました。前年名古屋の大学を卒業し、1年間遠野市内で中学の臨時講師を勤め、4月から正式採用が決まっていたが、それよりも伝道の道を選びました。そして多くの生徒たちに見送られて岩手を後にしました。

私は高校生の時に改宗し、そのころから伝道に出たいと思うようになりました。当初の予定では大学在学中に伝道に出るはずでしたが、卒業時にも伝道に出られる見通しはまったく立ちませんでした。教員志望の私は、大学卒業後、伝道が駄目な場合は教員になることを考えていました。

大学4年の夏には、あちこちの教員採用試験を受験しました。しかし、ことごとく不合格で、わずかに千葉県試験で補欠合格になったのみでした。そんな時、岩手県の教育事務所から連絡があり、「中学校の臨時講師をしてほしい」とのことでした。このまま家にいたのでは伝道に出られないかもしれない。それにどうせ伝道に出るのだからその間どこにいても同じだ、などというまったく安易な考えで岩手に行きました。ところが、そこでは、学級担任という想像もしなかった重い責任が待っていました。

岩手に行くときすぐに千葉県の教育委員会から、正式な教員として採用したい、という連絡を受けました。学級担任をしているので動けません、という表向きの理由で断りましたが、本音は正式採用になると伝道に出られなくなる、という心配から断っていたのです。この件によって、同僚の先生方、生徒たちには、「岩手県に残ってくれた」「そんなに岩手が好きなのか」と少し違う信頼を得、その結果、その年の夏、岩手県の教員採用試験を受けてしまいました。受験した理由は、皆の期待を裏切れなかったためです。勉強していないので必ず落ちるであろう、というのが私の予想でした。しかし、

1次、2次と試験に合格し、4月から正式な教員としての採用が決定してしまいました。同僚の先生方は大喜びで合格祝いをしてくれ、生徒たちも喜んでくれました。皆の気持ちはうれしかったのですが、それだけに心苦しくもありました。

このまま正式採用になれば、伝道に出られない。しかし、合格を喜んでくれた先生方、生徒たちにも今さら合格を辞退しませんが、散々悩み続けました。1カ月半悩み続けた挙げ句、校長先生にすべて自分の気持ちを伝えることにしました。結局、伝道の道を選びました。「なぜ先生を辞めるんだ。」「1度辞退したら岩手はおろかどこの県でも絶対教師になれないぞ。」「一生後悔するぞ。」同僚の先生方は私のことを心配する気持ちを込めて、善意で引き止めてくれました。確かに教師という職業はすばらしく、それは1年間の体験を通して感じたことでもあります。もし教師に戻れなかったら一生後悔するかもしれない。しかし、伝道に出られなかったら永遠に後悔するだろう。今、何があっても、どんなに反対されても、伝道に出るべきだ。こう感じたのです。岩手県の採用試験を受験していなければ、とも考えましたが、今となっては後の祭りです。残る道は、誠意を示し、謝ることしかないように思えました。校長先生をはじめ、教育事務所の先生方、合格を喜んでくれた先生方、生徒たちには、私が伝道に出ると言っても思いが通じず、「教師が嫌になって辞めるのではない。2年たったらまた教師に戻るから」と約束して岩手を後にしました。

2年間の伝道を終えると、私塾を経営する三重県の会員の元で働き始めました。昼間は教員採用試験の勉強、夜は塾の講師、という好条件の下で、採用試験の準備をしました。しかし問題は多くありました。第1に、5月に伝道を終え、7月の採用試験に臨むには準備する期間が短かすぎることで、第2



に、宣教師であった、という公務員として一番嫌われる宗教的な偏りがあること、第3に、決定的な理由として、本採用を辞退し、教職を離れていることでした。どれかひとつだけでも致命的であるのに、3つも重なると絶望的です。そんな中で、私を支えてくれたのは、伝道中生徒たちから来た手紙、そして「必ず、もう一度教師になる」という約束、また、主のみ業に携わったのだから必ずや備えられた道があるという信仰でした。自分なりに努力しましたが、2カ月ほどでは宣教師として送った2年間の生活のギャップを埋めるのが精一杯で、なかなか思うように、試験の準備ははかどりませんでし

た。三重県の採用試験は、結果を待つまでもなく不合格でした。岩手県の採用試験は、1次試験はなんとかパスしたものの、「採用辞退」の経歴が私の頭に重くのしかかっていた。2次試験は面接です。教職を離れた理由も自信を持って説明し、クリスチャンという立場でもきちんと教師はできることを話し、面接を終えました。「採用辞退」については不思議と問われませんでした。もう自分ででき得限りのことをしたのだから、たとえ不合格でも必ず主が備えてくださった道があるように考えるようになり、思い悩むことなく2週間後の結果を待ちました。

11月4日、岩手県教育委員会から通

知が来ました。「あなたを平成4年度採用候補者として登録いたします。」事実上の合格通知でした。それを見た時、信じ難く、実感がなかなかわいてきませんでした。泣いて見送ってくれた生徒たち、私のために始末書まで書く羽目になった校長先生、「教師は教師でもこれからは宣教師になります」と生徒たちに別れのあいさつをしたこと、日本宣教師訓練センターで訓練を受けていた時、伝道が終わり、もし神様が夢をかなえてくれるとしたら、もう一度教師になりたいと証をしたことなど、いろいろなことが思い出されました。

一番うれしかったのは、主のみ業を行なうに当たり、努力するなら、必ず備えられた道があることを経験をもって理解できたことです。「すべてのふさわしい男性は伝道に出るべきである」という予言者の言葉に、私は従いました。そして伝道という2年間の社会的ハンディキャップを背負っても、主が生きておられることを信じて、備えられた道を探すべく努力した時に、主の恵みと、主の存在とを知ったのです。神様は生きておられることを知っています。(やまぎき・こうき 支部若い男性会長)

## ●新刊ビデオのお知らせ●

●もっとも大切なもの  
VHS ビデオカセット

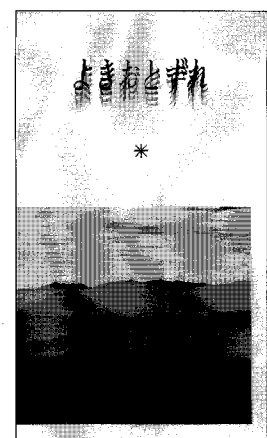
ITEM 53597 300

ITEM 86241 300 手話通訳入  
各17分 600円



ケント・デリカット兄弟、斎藤由貴姉妹が、福音を受け入れることによって得られる祝福と、宣教師を通して確かにその祝福がもたらされることを述べている。先祖への奉仕について述べられるもうひとつのメッセージと合わせて、家族、友人に無理なく教会を紹介することができる。

何人かの日本人の会員が、「創り主」「祈り」「イエス・キリスト」「人生—永遠に続くもの」「ジョセフ・スミス」「聖書とモルモン経」「福音が変えた私の生活」「社会的な圧力を克服する」の各テーマで、体験と証を述べている。宣教師から福音のメッセージを聞いている人々、新会員、また一般会員にも益するところが大きい。



●よきおとずれ  
VHS ビデオカセット

ITEM 53609 300

ITEM 86242 300 手話通訳入  
各35分 600円

## 役員の任命

1992年7月31日から9月17日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

- 東京東ステーキ部  
新ステーキ部長：細谷 佐<sup>たすけ</sup>  
(前任者：赤松成次郎)
- 仙台伝道部青森地方部青森支部  
新支部長：長内利剛<sup>おきないとしかげ</sup>  
(前任者：倉谷弘孝)
- 仙台伝道部秋田地方部秋田支部  
新支部長：阿部達也  
(前任者：佐々木聡)
- 東京北ステーキ部中野ワード部  
新監督：徳沢清児  
(前任者：野萩裕弘)
- 我孫子ステーキ部松戸ワード部  
新監督：高橋和義<sup>あげこ</sup>  
(前任者：宮下阿佐夫)
- 東京南ステーキ部千束ワード部  
新監督：萩原康裕  
(前任者：酒田達雄)
- 静岡ステーキ部沼津支部  
新支部長：植松延幸  
(前任者：坂上洋一)
- 大阪伝道部奈良地方部奈良支部  
新支部長：中野政信  
(前任者：中野和男)
- 岡山伝道部高松地方部高松支部  
新支部長：田染洋一<sup>たじょう</sup>  
(前任者：大村美貴男)
- 福岡伝道部熊本地方部熊本支部  
新支部長：松崎信次  
(前任者：石田廣智)
- 福岡伝道部熊本地方部白川支部  
新支部長：東條耕明<sup>とうめい</sup>  
(前任者：野田誠一)
- 福岡伝道部鹿児島地方部鹿児島支部  
新支部長：船倉文章  
(前任者：国生敬)

## 新ユニット

- 我孫子ステーキ部  
(1992年9月13日、東京東ステーキ部より分割)  
ステーキ部長：赤松成次郎<sup>しげじろう</sup>
- 東京南ステーキ部西小岩支部  
(1992年9月6日、東京イングリッシュ1stワード部より分割)  
監督：Dennis L. Madson

## 名称変更

- 我孫子ステーキ部北千住ワード部  
(北千住支部より名称変更)  
監督：佐々木民雄
- 東京東ステーキ部長生ワード部<sup>ちようせい</sup>  
(茂原支部より名称変更)  
監督：鈴木利和

JMTC

## 9月に召された専任宣教師

第159期生15人



後列左から1-8, 前列左から9-15

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 奥浦公作 <sup>おくうらこうさく</sup>	岡山M/高松D/高松B	名古屋伝道部
2. 山田芳 <sup>やまだよし</sup>	名古屋M/富山D/富山B	東京南伝道部
3. 松岡勇一 <sup>まつおかゆういち</sup>	仙台S/石巻B	福岡伝道部
4. 井上隆弘 <sup>いのうえたかひろ</sup>	東京北S/中野W	大阪伝道部
5. 青木博之 <sup>あおきひろゆき</sup>	高崎S/高崎W	神戸伝道部
6. 古厩恵美子 <sup>ふるまゐけみこ</sup>	東京S/吉祥寺W	福岡伝道部
7. 下村浩子 <sup>したむらひろこ</sup>	大阪S/大阪W	名古屋伝道部
8. 高橋明日香 <sup>たかはしあすか</sup>	横浜S/横浜中央W	岡山伝道部
9. 片岡美矢子 <sup>かたおかみやこ</sup>	横浜S/川崎W	大阪伝道部
10. 成瀬康子 <sup>なりせりょうこ</sup>	名古屋M/富山D/魚津B	福岡伝道部
11. 浜田香 <sup>はまたかほり</sup>	高崎S/高崎W	沖縄伝道部
12. 北原明子 <sup>きたはらあきこ</sup>	東京S/吉祥寺W	福岡伝道部
13. 安封香百合 <sup>あふみかほり</sup>	京都南S/草津W	東京南伝道部
14. 石塚香織 <sup>いしづかかほり</sup>	東京東S/鎌ヶ谷W	名古屋伝道部
15. 三浦ゆかり <sup>みづらゆかり</sup>	大阪S/大阪W	福岡伝道部

S：ステーキ部，M：伝道部，D：地方部，W：ワード部，B：支部